平成21年度 文部科学省委託事業

総合的な放課後対策推進のための調査研究報告書

放課後活動支援モデル事業

「小学校高学年や中学生、高校生が企画・指導に関る音楽学習による放課後活動プログラム」

財団法人音楽文化創造

目　次

はじめに …… 1

1. 事業の概要 …… 2
（1）　目的 …… 2
（2）　事業の背景･必要性･有効性 …… 2
（3）　事業の実施内容･方法 …… 3
（4）　事業の目標とする効果･成果 …… 3
（5）　事業の実施スケジュール …… 4

2. 各モデル事業の概要と調査研究の報告 …… 6
（1）　宮っ子ステーション（栃木県宇都宮市） …… 6
（2）　箏で和くわくいきいき体験（埼玉県熊谷市） …… 10
（3）　市原子ども音楽セミナー（千葉県市原市） …… 15
（4）　田浦おんがくっ子塾（神奈川県横須賀市） …… 20
（5）　富士宮子ども音楽セミナー（静岡県富士宮市） …… 25
（6）　三好子ども音楽セミナー（愛知県みよし市） …… 30
（7）　西宮子ども音楽セミナー（兵庫県西宮市） …… 35

3. 総評 …… 41

調査委員一覧 …… 43

はじめに

本報告書は、財団法人音楽文化創造が、文部科学省による平成21年度放課後活動支援モデル事業として実施した7つのモデル事業の概要と、事業の効果に関する本財団調査委員会による調査結果を報告したものである。

これら7つのモデル事業は、全国の7箇所（栃木県宇都宮市、千葉県市原市、埼玉県熊谷市、神奈川県横須賀市、静岡県富士宮市、愛知県みよし市、兵庫県西宮市）で実施され、実施責任者全員が、本財団が主催する「生涯学習音楽指導員養成講座」において、最上級である「A級指導員」の資格を有している。この意味では、平成19年度より継続して行われた放課後活動支援モデル事業の今年度の実施を通して、生涯学習音楽指導員が全国レベルで活躍し、かつ地域社会に根付いた音楽文化活動の中心的な担い手になっていることは明らかである。

また本報告書の活動例が示すように、放課後活動を支援し、またリーダー的児童・生徒を育成するためには、生涯学習音楽指導員のような地域に根ざした専門的な活動家が必要であり、音楽をひとつの契機として、演劇、民俗芸能などの分野との連携を促すことが大切である。

今後、放課後活動支援が施策として全国各地で実施されるにあたっては、生涯学習音楽指導員が積極的に、かつ有効的に活動できるような環境整備が、国、都道府県、地区町村の行政に望まれる。

平成21年度 放課後活動支援モデル事業調査委員長
久保田 慶一

事業実施一覧

	プログラム名	実施地域	実施責任者	調　査　者
1	**宮っ子ステーション**	栃木県宇都宮市	和久 文子	八木 正一（埼玉大学教授）
2	**箏で和くわくいきいき体験**	埼玉県熊谷市	齊藤 才子	立田 慶裕（国立教育政策研究所総括研究官）
3	**市原子ども音楽セミナー**	千葉県市原市	勝又 訓子	久保田 慶一（東京学芸大学教授）
4	**田浦おんがくっ子塾**	神奈川県横須賀市	津野 久美子	澤崎 眞彦（東京学芸大学教授）
5	**富士宮子ども音楽セミナー**	静岡県富士宮市	赤池 よし子	久保田 慶一（東京学芸大学教授）
6	**三好子ども音楽セミナー**	愛知県みよし市	新谷 啓子	今西 幸蔵（神戸学院大学教授）
7	**西宮子ども音楽セミナー**	兵庫県西宮市	岩崎 久仁子	今西 幸蔵（神戸学院大学教授）

1. 事業の概要

(1) 目的

今回のモデル事業実施の目的は、次の3つである。

第1に、小学校高学年や中学・高校生が、効果的な音楽学習と交流の事業の企画･実施に参加し、子どもたちを指導する活動を通じて、小学校高学年や中学・高校生のリーダーシップを養うこと。

第2に、音楽を教える経験と、子どもたちと音楽の感動を共有する経験を通して、小学校高学年や中学・高校生が音楽を学ぶことの大切さと喜びを知り、人を思いやる豊かな心や感受性と、人と共に働く協働性・社会性を育むこと。

第3に、地域のリーダーとしての経験をきっかけとして、地域の音楽文化の大切さを学ぶこと。

また、事業の成果を検証し提供することにより、「放課後子どもプラン」の充実に寄与することである。

(2) 事業の背景・必要性・有効性

① 背景

少子高齢化、国際化、格差の拡大など多様な環境変化や社会問題の状況の中で暮らす子どもたちの健全な心身の発達を図るためにも、音楽文化の環境の充実は法的、社会的に重要な課題である。このような課題を克服する方途として、歌唱やオーケストラなどの音楽学習は、実際の楽器を用いて多くの人と協働して行うため、子どもたちの心の豊かさを育むと共に、社会性や、一緒に何かをしようとする協働性を養う教育的意義をもつ。ケータイやインターネットが定着し、人と人とのふれあいが希薄化した子どもの日常生活環境の中で、多くの人と一緒に行う音楽活動を介した学びと交流活動が大きな効果を持つ。

② 必要性

こうした社会状況の中で、教師や大人の指導者の指導のもとに、小学生高学年から高校生までのリーダーが幼い幼児や児童・生徒の音楽指導を通して、音楽を教える経験を積み、リーダーとして成長してくれることが、今後、学校を中心とした地域の音楽文化の発展には欠くことはできない。

③ 有効性

当財団では、資格認定された「生涯学習音楽指導員」により、「音楽で心の居場所づくり」をテーマに、子どもたちの心の豊かさを育み、多くの人と共に生きる協調性を養うことを目的とした「地域子ども教室推進事業」を平成17・18年の2年間わたり全国77箇所で実施した。さらに、平成19年度と20年度には、「放課後活動支援モデル事業」を受託し、全国各地において「放課後の効果的な活動プログラム」をテーマに実施し、その実績は教育関係者、保護者から高い評価を得ると共に、実施にあたっての解決すべき問題を明らかにし、将来への展望を示した。

この4年間の成果と蓄積されたノウハウを基盤に、今回新たに、日ごろ子どもたちが学校では体験できないようなユニークで先進的なプログラムとして、今年度は音楽学習プログラムの提供により、小学生高学年から高校生までのリーダー育成のためのモデル事業を企画・実施する。

(3) 事業の実施内容・方法

① 事業の実施内容

・事業の位置づけとしては、「放課後子どもプラン」の基本的な考え方の中にある、様々な活動機会の提供の一環として、「文化活動、及び地域住民との交流活動の機会の提供を推進すること」に位置づけられる。

・全国計7箇所でモデル事業を実施する。今回は1箇所につき8回の音楽プログラム（1回2時間）を実施する。

② 具体的内容

地域特性と地域の音楽文化を活かした放課後音楽学習プログラムとして、都市や農村部における子どもの通学環境を踏まえながら、以下の2つのプログラムを計画し、各地域の指導員の協力を得て、実施する。

第1のプログラムは、伝統楽器の演奏、ミュージカル、和太鼓、民族楽器の演奏などを通して、本物の音楽を経験し、自ら体験することを学ぶ。

第2のプログラムは、小学生高学年から高校生までのリーダーを育成するために、指導者はさまざまな機会を設けて、講義、セミナー、ミーティングを実施し、リーダー育成プログラムを開発する。

③ 地方公共団体との連携・協力

平成17年度以降の経緯を踏まえ、当モデル事業を継続的に実施できる地方公共団体（教育委員会）と連携して実施する。実施地域の教育委員会には事業の趣旨、目的を充分ご理解いただいたうえで、後援名義使用、会場となる学校・公共施設の提供、広報誌への掲載等のご協力をお願いする。また、実施にあたっては事業内容をご覧いただき、事業についての助言、提言をいただく。さらに、地域の文化団体、ＰＴＡ等にも協力、連携、参加を呼びかけ事業に広がりを持たせて行きたい。

④ 効果性の根拠

指導に当たる生涯学習音楽指導員は、経験豊富な音楽指導者であると共に、社会教育についての知識、経験も豊富である。音楽療法の資格を有する者も数多い。さらに、そのジャンルも邦楽から洋楽と多岐にわたり、子どもたちがさまざまな音楽体験をすることができるという、生涯学習音楽指導員の特長を活かした指導内容である。

(4) 事業の目標とする効果・成果

① 求められる成果・効果

・ 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽の素晴らしさを学ぶ。

・小学生高学年から高校生までのリーダーを育成する

② 成果・効果の検証方法

・指導者へのアンケート調査

・リーダーへのアンケート調査

・調査員による現地調査

上記の調査データに基づき、後述の「事業推進委員会」において検証作業を行い、研究報告書としてまとめる。

(5) 事業の実施スケジュール

実施時期	実　施　内　容
6月	・生涯学習音楽指導員研究会ネットワーク（全国31都道府県で活動中）に事業の告知。
7月	・各ネットワークから提出されたモデル事業、事業計画の検討、実施地域の決定。（全国7地区）
8月	・実施決定の7地区にて具体的な事業実施計画を策定。
9月	・モデル事業開始。
2月	・モデル事業終了。 ・検証作業及び報告書の作成。

(6) 事業の実施体制

① 団体の構成

氏　名	職　名	当事業における担当内容
嶋崎　譲	理事長	事業統括
久保庭 伊佐男	常務理事	事業統括補佐
江村 尚彦	常務理事・事業局長	事業統括補佐
中山 紳一	事務局長	事業運営

② 事務担当者

氏　名	所属・役職	連　絡　先
中山 紳一	事務局長	住 所：東京都千代田区外神田　2-18-21 電 話：03-5256-2766 FAX：03-5256-2767 E-mail：info@onbunso.or.jp

③　事業実施のための組織

事業推進組織（財団法人音楽文化創造）

理事長

常務理事

事務局

《事業推進委員会》

委員長：	嶋崎　譲	（財）音楽文化創造理事長
委　員：	澤崎 眞彦	東京学芸大学教授
	八木 正一	埼玉大学教授
	久保田 慶一	東京学芸大学教授
	立田 慶裕	国立教育政策研究所総括研究官
	久保庭 伊佐男	（社）日本工芸会事務局長
	藤井 京子	全日本エレクトーン指導者協会全国本部指導室研究スタッフ
	江村 尚彦	（財）音楽文化創造常務理事/事業局長
	中山 紳一	（財）音楽文化創造事務局長
	廣瀬 義勝	（財）音楽文化創造研究開発室長

《生涯学習音楽指導員研究会ネットワーク》
モデル事業を直接実施

2. 各モデル事業の概要と調査研究の報告

1 宮っ子ステーション（栃木県宇都宮市）

事業責任者:和久 文子

【事業報告書】

1. 事業の目的	①小学校高学年や中学・高校生が、効果的な音楽学習と交流の事業の企画·実施に参加し、子どもたちを指導する活動を通じて、小学校高学年や中学・高校生のリーダーシップを養うこと。 ②音楽を教える経験と、子どもたちと音楽の感動を共有する経験を通して、小学校高学年や中学・高校生が音楽を学ぶことの大切さと喜びを知り、人を思いやる豊かな心や感受性と、人と共に働く協働性・社会性を育むこと。 ③地域のリーダーとしての経験をきっかけとして、地域の音楽文化の大切さを学ぶこと。		
2. 推進する地方公共団体名（教育委員会担当課等）	宇都宮市立西小学校		
3. 教室名	宮っ子ステーション		
4. 実施場所	宇都宮市立西小学校	5. 実施回数	8回
6. 講師等	講　師　数　　4人	講師謝金　　3,100円	
	参加講師氏名（全員） （補助含む）	和久文子、長峯朋子、鹿倉菊江、小林時久、川俣弘子、妻木律子	
	安全管理数　　4人	安全管理員謝礼　　700円	
7. 参加者 （1回あたり）	①子ども（生徒）　　16 ～ 237人　　（幼児の参加　無　）		
	②小学校高学年、中学・高校生（リーダー役）　　概ね　小　0人、中　5人、高　5人		
8. 参加者の募集の方法	①子ども（生徒）	西小学校児童に学校から参加募集	
	②小学校高学年、中学・高校生（リーダー役）	宇都宮市内中学校・高等学校の箏曲部の生徒たちを対象に参加募集。	
9. 全般を通じて育成の対象となったリーダー数		小学生　0人、中学生　6人、高校生　9人	

10. 計画した活動の実施内容

①音楽指導活動の内容

第1回：伝統楽器をとおしてリーダーと子ども達との交流。

第2回：箏を楽しく教える（基本的な奏法）。

第3回：学校と地域が連携し復活させることを目的とした「西校音頭」を、箏で演奏（五線譜のリズム・唄の指導も行う）。

第4回：「西校音頭」を和太鼓・リコーダーも指導し、箏と合奏する。

第5回：「西校音頭」を箏・リコーダー・唄・和太鼓と合奏・踊りと合わせる。「宇都宮市立西小学校校歌」に挑戦。箏の指導及び五線譜によるリズム指導。

第6回：体育館にて全校生による全体練習。

第7回：地域との連携活動により、オリオンスクエア（ベストフェスタin西）にて全校生による成果発表。

第8回：全員暗譜した「西校音頭」「西小校歌」を箏で演奏。お別れ会を兼ね、リーダーと子ども達の最後の交流を行う。

②小学校高学年、中学・高校生のリーダーを育成するための具体的活動

全体を通して「心技」の指導。

第1回：子ども達との心の交流（小グループに分かれて、お互いの名前を覚える）。リーダー1人・子ども2〜3人。リーダーは笑顔で明るく元気にはっきりと。

第2回：基本的な指導をリーダーがわかりやすく、楽しく行う工夫を話し合う。自分達も楽しむコツ。

第3回：常に子ども達の目線で教え、状況に合わせ柔軟に対応する工夫。

第4回：リーダーは、子ども達1人1人に合う弾き方を考え、少しでも良い音を出させる工夫（親指のそり具合によって支える薬指の位置確認）。

第5回：子ども達の様子を見ながら、楽しくゆっくり、教え方の工夫を考える。

第6回：リーダーは個人差を理解し、根気強く教える。上手なほめ方、直し方の工夫を考える。リーダーが弾きづらい所を理解し、合奏の合わせ方、呼吸法を指導させる。

第7回：初舞台での発表会に子ども達の緊張をほぐす。箏の配置、座り方、姿勢等に気配りをする。心を合わせ、楽しい発表会に心がける。

第8回：反省会、お別れ会を兼ね、子ども達とリーダー、スタッフの心の交流。

11. 目指した成果・目標に対する達成状況

①音楽指導の観点から

（達成できた点、成果が上がった点）

・リーダーは、「西校音頭」、「西小校歌」等、五線譜の楽譜を使用することにより、日頃タテ譜使用の多い箏曲部の生徒たちが、箏の調弦を考え、弾きやすいよう工夫する力を養うことができた。

・全校生（箏・リコーダー・太鼓・唄・踊り）での合奏、コラボレーションにより、統率力、仕上がり、達成感を得ることができた。

・良い音色の創造と初心者への指導力を培うことができた。

・受講した小学生は、1年から5年生まで曲を暗譜し、大きな音で演奏、箏の楽しさ、合奏の喜び、達成感を味わう。

・リーダーのお姉さん達と心の交流ができ、合奏がより楽しめた。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

（達成できた点、成果が上がった点）

・リーダーは、高度な音楽作りを目標に、毎日部活動において研鑽している生徒たちなので、それぞれが下級生に対し、日頃から指導的立場にある。しかし、今回はまったくの初心者で年齢差のある小学生にどのようにわかりやすく指導したら良いか、指導者としての考える力、思いやり、忍耐、技術指導法と様々な観点から成長することができた。

（未達成の点、成果が上がらなかった点）

・学校行事、インフルエンザ等、全日程全く同じリーダーということが困難であったため、リーダーの生徒達も行けない日はとても残念な思いであった。

12. 活動プロセスの中での苦心・工夫した点

①音楽指導の観点から

（苦心した点）

・受講した小学生の（1年～5年まで）年齢差、理解力の差を、リーダーが工夫して対応できる力を育てる。

・親指のそり具合で違う、箏爪の弦に対するあて方の指導。

（工夫した点）

・年齢に合わせた指導時間を設ける。

・指導的役割により、根気強く、子ども達の目線に合わせ、自らの視点で考え工夫する。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

（苦心した点）

・リーダー育成の学校が、受講生との同一校ではなく、リーダーの行き帰りの安全対策を行う。

・学校行事や活動・また今回はインフルエンザの影響で、日程変更や全日程、全く同じリーダーの生徒育成が困難であったため、引き継ぎを綿密に行う。

（工夫した点）

・両校と協力面での連携がスムーズに行なわれたことにより、リーダーの行き帰りでの安全対策は、中・高校生の先生が毎回付き添ってくれた。

13. 今後の取り組みに向けての課題

①音楽指導の観点から

・受講生の年齢差による指導法。（同時指導の場合）

・知識や理解力の違う、年齢差に応じた話し方や、楽譜、リズム等の音楽的指導。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

・複数校の児童・生徒が合同で行なう活動なので、日程調整、送迎含む交通手段の打ち合わせを綿密に行う。

・集合場所等への安全対策。

・学校と地域との協力・連携が不可欠であり、ネットワーク指導員が自覚と責任を持ってその役割を担う。

指導者へのアンケート

（1）リーダーたちが習得したと、指導者が判断した能力

指導者には、事業を経験することで習得したと思う能力に順位を付してもらった。

（結果）

リーダーシップ→コミュニケーション力→積極性→協調性→遂行力→計画力

（2）指導者として努力した点

指導者Ａ：積極的に子どもたちに話しかけること、明るく笑顔で、ことばをはっきり話す、少しでも良いところを見つけてほめてあげること

指導者Ｂ：普段指導している私たちが直接ということではなく、リーダーとなる中・高校生たちが、自ら積極的な意識をもって児童に接するよう、促した

指導者Ｃ：指導者からではなく、生徒たちが直接児童へ教えてあげられるようにした

（3）指導者として工夫した点

指導者Ａ：習う児童と教える生徒のふれあいを重視して、毎回少しずつ心の交流タイムを入れた

指導者Ｂ：生徒たちと児童たちが、コミュニケーションをはかりやすくするように、楽器を通じて共通の話題を投げかけ、会話・対話が多く取れるようにした

指導者Ｃ：まず、生徒と児童の会話がスムーズになるように交流の時間をもち、お互いを知り、話しかけやすくなるようにした

(4) 今回できなかったこと

指導者A：リーダー育成の中、中・高校生が、学校行事及び留学、テスト、インフルエンザの影響により全期間同じ生徒ということが不可能であった。また日程変更も余儀なくされた

指導者B：邦楽に携わる他の学校との交流もはかってみたかった。

指導者C：どうしても学校などの都合により、毎回全て同じ生徒が指導することができなかったのが残念である。

(5) 今後すべきこととしたいこと

指導者A：今回のリーダー海星中学校、高校箏曲部が、全国2位という演奏力を子どもたちに聞かせるチャンスに繋がったこと。子どもたちも鑑賞することによりまた音楽感も変わったように思う。次回はぜひ取り入れたい

指導者B：初めての試みであったので、機会があれば、事業の継続を進め、更なる人材育成をはかりたい

指導者C：子どもたちが邦楽に触れることの喜びを指導者としても大変嬉しく思ったが、生徒たちが教えることに興味を持ち、さらに自ら工夫していく積極的な姿により嬉しく思った。事業を継続していきたいと強く思った。

リーダーたちへのアンケート

リーダーたちには、事業開始前と終了後に同じ質問項目によるアンケート調査を実施した。1から5までの5件法で回答してもらい、事業前後でそれぞれの9項目の平均値を比較した。

（結果）

<u>自信がついた能力</u>

・みんなの意見をまとめる　・みんなの悪いところは注意できる　・人の嫌がることができる　・友達が失敗したら助けてあげられる
・友達の前で自分の意見が言える　・グループをリードできる　・計画を立てて行動できる　・今何をしたらよいかがわかる

<u>変化しなかった能力</u>

グループで行動できる

調査報告　　調査員：八木正一

(1) 事業の目的とする効果・成果について

①子どものリーダーたちに企画力、問題解決力が身についてきた。　→　かなり達成された
②子どものリーダーたちの指導力、学習力の向上がみられる。　→　かなり達成された
③子どものリーダーたちが将来への夢をもち、意欲的に考える事につながっている。　→　かなり達成された
④異学年や地域の大人たちとの交流を通じて社会性が身についてきた。　→　かなり達成された
⑤本物の音楽や楽器の体験を通して音楽の素晴らしさを学ぶことができた。　→　かなり達成された
⑥合奏・合唱などの共同作業を通じて協調性や社会性を育むことができた。　→　かなり達成された

(2) 総評

今回リーダーとして活動していたのは、海星女子学園中学校、高等学校の生徒6名であった。講座に参加した小学生は13名であった。講座は、基礎練習、西校音頭復習、合わせ、箏による校歌演奏、DVD鑑賞、振り返りという密度の濃い内容であった。高校生たちは、それぞれの場面で小学生の指導補助、助言に積極的にあたっていた。同時に、子どもたちとのコミュニケーションも十分とれて、良好な関係性を築いていることがみてとれた。小学校の子どもたちは、音楽を心から楽しんでいる様子であった。これは指導にあたった音楽指導員の力量の高さと同時に、指導補助等を行った中高生の活動の結果として理解できる。最後の振り返りにおいて、中高生から次のような発言がなされていた。

「不安があったけど言葉の使い方教え方のたいへんさがわかった」、「今後の自分の役にたった　たのしかった」、「成長する姿が見られたのでうれしかった」、「自分自身も教えることで成長」、「私もがんばらなくてはいけないと思った。」

こうした発言の中に、今回の事業の成果が物語られている。高い成果の上がった講座だと判断できる。

2　箏で和くわくいきいき体験（埼玉県熊谷市）　実施責任者:齊藤 才子

【事業報告書】

1. 事業の目的	①小学校高学年や中学・高校生が、効果的な音楽学習と交流の事業の企画･実施に参加し、子どもたちを指導する活動を通じて、小学校高学年や中学・高校生のリーダーシップを養うこと。 ②音楽を教える経験と、子どもたちと音楽の感動を共有する経験を通して、小学校高学年や中学・高校生が音楽を学ぶことの大切さと喜びを知り、人を思いやる豊かな心や感受性と、人と共に働く協働性・社会性を育むこと。 ③地域のリーダーとしての経験をきっかけとして、地域の音楽文化の大切さを学ぶこと。		
2. 推進する地方公共団体名（教育委員会担当課等）	熊谷市教育委員会社会教育課、熊谷市立中条公民館		
3. 教室名	箏で和くわくいきいき体験		
4. 実施場所	熊谷市立中条公民館	5. 実施回数	8回
6. 講師等	講　師　数　　3～4人	講師謝金　　3,100円	
	参加講師氏名（全員） （補助含む）	齊藤才子　柳直子　岸田尚美　山﨑明美　小野塚加代 土居昌子　白倉武二	
	安全管理数　　0人	安全管理員謝礼　　0円	
7. 参加者 （1回あたり）	①子ども（生徒）　　8人　　（幼児の参加　無　）		
	②小学校高学年、中学・高校生（リーダー役）　　概ね　小　1人、中　4人、高　1人		
8. 参加者の募集の方法	①子ども（生徒）	・熊谷市教育委員会発行（くまがやキッズに生徒募集を掲載） ・中条公民館だよりに、教室開催生徒募集を掲載	
	②小学校高学年、中学・高校生 （リーダー役）	・昨年度及び今までの体験児童に呼びかける。 ・中条中学校音楽部、及びOB生徒へよびかける。	
9. 全般を通じて育成の対象となったリーダー数		小学生　1人、中学生　4人、高校生　1人	

10. 計画した活動の実施内容

①音楽指導活動の内容

第1回：参加者、講師を含め自己紹介で親睦を深める。リーダーを中心に会場、楽器の準備。箏で「さくら」の基本的な弾きかたで演奏する。

第2回：リーダー中心に楽器の準備、参加生徒にも手伝いを促す。「さくら」の演奏に慣れる。「ありがとう」「おねがいします」など、挨拶をしっかりする。

第3回：「さくら」が弾けるようになった生徒は「スクイ爪」の奏法で演奏する。前奏を弾く。アイスブレーキングで大きな声でうたう。

第4回：箏をドレミの調弦にして、熊谷市歌を箏で弾く。エレクトーンの伴奏で熊谷市歌を大きな声で歌う。挨拶、礼の確認。

第5回：「さくら」の主題とスクイ爪の変奏、伴奏との合奏をする。アイスブレーキングで声を出したり、動作をする。

第6回：「さくら」の合奏をリーダーの指導ですすめて行く。リーダーは生徒の挨拶や、準備の手伝いを生徒に指示をする。

第7回：調査員の視察のもと、参加生徒挨拶や礼儀の確認。リーダーの指示に従い「さくら」の合奏をする。

第8回：熊谷市立文化会館で、参加児童の修了コンンサートを行う。リーダーは舞台の準備、生徒の世話をする。生徒は「熊谷市歌」「さくら」の演奏を発表する。
演奏後は指導員による演奏を客席で鑑賞をする。塾の修了証書を授与する。

②小学校高学年、中学・高校生のリーダーを育成するための具体的活動

第1回：アンケート記入とともに準備の進め方、参加生徒の体験の達成度などについて話した。

第2回：中学生の準備参加に対し、安全かつ機敏に行動するよう話した。

第3回：学年差により、技術的な差があることにたいし、低学年の個別指導にあたり、くり返し何度も同じことを練習させたり休ませたりする、ことなどの指導。

第4回：ドレミの調弦が加わり準備に時間がかかることを話し、指導員と共に調弦をする。新しい曲「熊谷市歌」を始めるので低学年の個別指導を更に集中して行う。

第4回：「さくら」の合奏リーダーの指示でする言葉かけの練習。

第5回：「さくら」の合奏をリーダーが進めていく、順序について確認をする。

第5回：実施後、参加生徒の達成度から、個別指導と合奏の全体指導の時な配分について相談。

第6回：実施後、指導順序、ポイントの確認について話す。

第7回：実施前、今日のタイムスケジュール、指導のポイントの確認。

第8回：実施前に、コンサートについて、準備の手順について確認する。生徒の集合時間や、待機時間場所の再確認、発表でも低学年につき演奏を見守る。

11. 目指した成果・目標に対する達成状況

①音楽指導の観点から

（達成できた点、成果が上がった点）

・和楽器「箏を弾く」体験の中で、初対面のグループで、仲良く協調性を持ち活動できた。「さくら」の主題と変奏、伴奏に合わせた合奏ができた。挨拶がしっかりとできるようになり、正座での礼が積極的にできるようになった。

・日頃学校で歌っている「熊谷市歌」を箏で弾くことにより、ドレミの洋音階の曲が弾けることを知り、より楽器に親しみが持てた。

・終了コンサートで発表することで、緊張感や達成感を体験した。

（未達成の点、成果が上がらなかった点）

・「歌舞伎」や「中条樽踊り」の他団体との交流ができなかった。理由としては、他団体の参加児童の減少とこちらの練習日との調整がむずかしかった。「箏」の体験だけで、時間的な余裕がなかった。

・新型インフルエンザの流行のため、活動の制限があった。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

（達成できた点、成果が上がった点）

・中心的なリーダーを務めた高校生1名は、会場の整備、準備もスムーズにでき、参加生徒への言葉がけや、簡単な音楽指導ができるようになった。

・中学校音楽部の生徒8名は、継続して参加できなかったが、準備や片付けえを中心に積極的に行動できた。
また、小学生の参加児童に個別指導も体験した。

（未達成の点、成果が上がらなかった点）

・小学校4年生の生徒はおんがくっ子塾から体験が3年目で、リーダー役として進めていたが、初体験の生徒への部分的な指導や、2～3人グループ指導で終った。

・中学校音楽部の生徒には、模範演奏などを披露したり、簡単な指導をしたりしてほしかったが、コンクール出場のため練習があり楽器の準備、片付けが中心になった。

12. 活動プロセスの中での苦心・工夫した点

①音楽指導の観点から

（苦心した点）

・年齢差、体験年数の差による技術的な差の中で、一つの曲を合奏すること。

・低学年を飽きずに、参加させること。

・準備や片付けをスムーズにすること。

・日本の伝統楽器として、今の時代にも魅力ある楽器として伝えること。

・ただ弾くだけでなく、その中に挨拶や礼儀、協調性が大切であることを伝えること。

（工夫した点）

・会場選び。　箏は運搬が大変なので1階であること、手伝ってもらう中学生が家から近く参加しやすいこと。

・低学年も弾けるよう、楽譜のアレンジやパート分けをし、リーダーの個別指導で、くり返し練習させた。

・エレクトーンの伴奏でのアイスブレーキングを楽しく入れた。

・みんな知っている、熊谷市歌で親しみのある、ドレミの洋楽音階を取り入れた。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

（苦心した点）

・部分的な指導はできるが全体の流れの中で、指導の範囲を広げていくこと。

・グループでの合奏がまとまるよう低学年の個別指導の方法。

（工夫した点）

・リーダーが低学年の個別指導の中での感想をその都度は話し、それに対しどうするかを指導員と一緒に考えた。

・低学年の発達的な特徴を話し無理がないよう、指導すること。

・リーダーの力量に合わせた指導内容にすること。

13. 今後の取り組みに向けての課題

①音楽指導の観点から

・技術的に楽器を弾くことの体験の中から、音楽の技術的な成長、感性の他、社会性や、心の面でも成長して欲しい。体験は、経験者の継続を含め継続していくことが大切である。支援事業費削減の傾向があるが、ぜひ予算を付けていただいて、日本の伝統文化、伝統楽器を国、県、市町村での支援が必要である。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

・リーダーは、小学校高学年から、中学生、高校生 が望ましい。指導を受けるだけでなく、指導する立場の参加型にすることで、より体験に対する意識が高まる。楽器の場合、その楽器に対し経験がないと、指導はむずかしいので、やはり地域で継続し定着していくことが望ましい。

・学習塾などでの、課外活動が中心であるが、音楽での心の発達が大切だと思う。

指導者へのアンケート

(1) リーダーたちが習得したと、指導者が判断した能力

指導者には、事業を経験することで習得したと思う能力に順位を付してもらった。
(結果)
積極性→コミュニケーション力→協調性→遂行力→リーダーシップ→計画力

(2) 指導者として努力した点

指導者A：児童に対し、活動の内容や次回の連絡を重視し、保護者への確認をした。箏を弾く楽しさと、きちんとした礼儀を教えた。正座での挨拶、髪をきちんとまとめる、服装
指導者B：挨拶の大切さを教える
指導者C：リーダー役の生徒に、なるべくその他の児童と接したり模範演奏に加わるよう声掛けした。
指導者D：自分の経験を話し、気持ちを指導することに向けた

(3) 指導者として工夫した点

指導者A：リーダー役をうまく使うこととして反省点や課題を話し合った。箏は日本の伝統楽器であるが、今現在の音楽も演奏でき、また作り出していくことの大切さを伝えるため、「熊谷市歌」を箏のアンサンブルに編曲して合奏した。
指導者B：毎回あいさつを参加のときに言葉掛けした。
指導者C：なし
指導者D：レッスンする際に、具体的な方法を指導する。(弾く順番や声掛けなど)

(4) 今回できなかったこと

指導者A：他団体との交流
指導者B：地元の伝統芸能を取り入れようとしたが、時間がなくできなかった。
指導者C：今回は個人的には箏の演奏をさせるうえでのサポートだった。
指導者D：パートごとにリーダーを作り、まとめてもらう

(5) 今後すべきこととしたいこと

指導者A：箏の体験授業を続け、今までの参加者が継続し、さらにレベルアップした演奏ができること。またリーダーとして企画に参加していくこと
他団体、洋楽や舞踊などとのコラボレーションもやりたい。
指導者B： 地元の伝統芸能を見学させたい
指導者C：今回も、また今後のアンサンブル指導などを通じても、人と人との協調性や思いやりを伝えることによって人材育成に多少なり貢献できると思う。
指導者D：経験した人を呼び戻し、初心者をリードしてもらう

リーダーたちへのアンケート

リーダーたちには、事業開始前と終了後に同じ質問項目によるアンケート調査を実施した。1から5までの5件法で回答してもらい、事業前後でそれぞれの9項目の平均値を比較した。
(結果)
<u>自信がついた能力</u>
・計画を立てて行動できる　・今何をしたらよいかがわかる
<u>自信を失った能力</u>
・友達が失敗したら助けてあげられる　・グループで行動できる
<u>変化しなかった能力</u>
・みんなの意見をまとめることができる　・みんなの悪いところは注意できる　・人の嫌がることでできる
・友達の前で自分の意見が言える　・グループをリードすることができる

調査報告　調査員:立田慶裕

(1) 事業の目的とする効果・成果について

①子どものリーダーたちに企画力、問題解決力が身についてきた。　→ほぼ達成された
②子どものリーダーたちの指導力、学習力の向上がみられる。　→ほぼ達成された
③子どものリーダーたちが将来への夢をもち、意欲的に考える事につながっている。　→かなり達成された
④異学年や地域の大人たちとの交流を通じて社会性が身についてきた。　→かなり達成された
⑤本物の音楽や楽器の体験を通して音楽の素晴らしさを学ぶことができた。　→ほぼ達成された
⑥合奏・合唱などの共同作業を通じて協調性や社会性を育むことができた。　→ほぼ達成された

(2) 総評

本事業では、当初計画していた中学生が、企画の段階では参加していたが、小学生対象の実際の各回では、土曜日の部活動のために参加が難しくなるという課題が生まれた。だが、事業の指導そのものは高校生リーダーが担当し、その前後の準備や後片付けをしながら、小学生の学習に中学生も接することができた。その成果として、第一に、邦楽の体験学習では、短期間に小学生の技術が向上した。音楽指導員の感想によければ、これまでの事業では一人で大変だったが、高校生リーダーや中学生のジュニアたちの事業支援によって、それぞれのリーダーたちの学習意欲が向上しただけではなく、音楽指導員自身も非常に、こうした青少年リーダーたちによって支援を受けることができているということであった。第二に、小学生、中学生、高校生、保護者、そして音楽指導員といった世代を連続する人々が参加することで、互いに学習や支援がしやすくなるという学習上のメリットが生まれている点は、こうした事業の効果であろう。

3　市原子ども音楽セミナー（千葉県市原市）　実施責任者:勝又 訓子

【事業報告書】

1. 事業の目的	①小学校高学年や中学・高校生が、効果的な音楽学習と交流の事業の企画·実施に参加し、子どもたちをする指導活動を通じて、小学校高学年や中学・高校生のリーダーシップを養うこと。 ②音楽を教える経験と、子どもたちと音楽の感動を共有する経験を通して、小学校高学年や中学・高校生が音楽を学ぶことの大切さと喜びを知り、人を思いやる豊かな心や感受性と、人と共に働く協働性・社会性を育むこと。 ③地域のリーダーとしての経験をきっかけとして、地域の音楽文化の大切さを学ぶこと。		
2. 推進する地方公共団体名（教育委員会担当課等）	市原市教育委員会生涯学習課		
3. 教室名	市原子ども音楽セミナー　ミュージカル講座		
4. 実施場所	市原市三和コミュニティーセンター	5. 実施回数	8回
6. 講師等	講　師　数　　4人	講師謝金　　3,100円	
	参加講師氏名（全員）	勝又訓子　　近江君枝　　庄子由実　　加瀬直子	
	安全管理数　　2人	安全管理員謝礼　　700円	
7. 参加者（1回あたり）	①子ども（生徒）　　24人　　（幼児の参加　無　）		
	②小学校高学年、中学・高校生（リーダー役）　　概ね　小　6人、中　1人、高　0人		
8. 参加者の募集の方法	①子ども（生徒）	市内の小学校を通して、チラシを個人配布した	
	②小学校高学年、中学・高校生（リーダー役）	地域子ども教室時代からの参加者の中から、小学校5年生以上の該当者に個別連絡をして、参加を募った	
9. 全般を通じて育成の対象となったリーダー数	小学生　6人、中学生　1人、高校生　0人		

10. 計画した活動の実施内容

①音楽指導活動の内容

最終目標：オリジナルミュージカルを制作して「第4回おんがくっこフェスティバル・千葉」のステージで発表する
第1回：リーダー毎にメンバーをグループ分けし、グループ毎の役割分担を決めた
第2回：グループ毎にキャストを決め、担当キャストに従って台詞を考え、歌詞や挿入曲のメロディーを作った
第3回：グループ毎に作った台詞をもちよって、あらすじにそって台本をつくった
第4回：台本にそって、台本読み、歌稽古、ダンスの振り付けなど、皆で決めながら全体をとおして稽古した
第5回：本番用の最終台本を完成させ、それにそって、割り稽古した
第6回：全体を通しての、立ち稽古
第7回：本番の会場の舞台でのリハーサル
第8回：発表

②小学校高学年、中学・高校生のリーダーを育成するための具体的活動

第1回：リーダー会議　①リーダー同士の自己紹介、②役割についての説明　＜宿題＞あらすじ作り
第2回：リーダー会議　①持ち寄ったあらすじをまとめる、②参加者のグループ分けとキャスト決め　＜宿題＞メロディーの作曲
第3回：リーダー会議　①皆が作曲してきたモチーフを曲にしていく、②楽譜の書き方講習　＜宿題＞キャスト毎の台詞を考える
第4回：リーダー会議　①あらすじに台詞を入れて全体の流れと結末を話し合う
＜宿題＞キャスト毎衣装とシンボルカラーを決める
第5回：リーダー会議　①それぞれの決めてきたシンボルカラーの調整　＜宿題＞キャスト毎に必要な小道具を考える
第6回：リーダー会議　①本番用の台本を完成させる、②視察の調査委員との懇談
第7回：リーダー会議　①本番会場でのグループ行動とリーダーシップのとり方をアドヴァイスした

11. 目指した成果・目標に対する達成状況

①音楽指導の観点から

（達成できた点）
・担当キャストの台詞を考えたり、意見やアイディアを積極的に発言できるようになった
・担当したグループの台詞、歌、ダンスについて責任を持って練習できるようになった
（成果が上がった点）
・リーダー全員の作曲したメロディーのモチーフを、作品の中に生かして作ることができた
（未達成の点）
・多くの事柄において、リーダーの資質に個人差があって、成果に格差ができた
（成果が上がらなかった点）
・振り付け作業が、ほとんどのリーダーにとって困難なことだった

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

（達成できた点）
・グループの意見をまとめ、自主練習をリードできるようになった
・参加者全員が、元気に楽しく参加できた
（成果が上がった点）
・リーダーの中にリーダーをまとめるリーダー（最年長＝唯一の中学生）が育った
・本番の日の行動をリーダーにまかせ、グループごとで行動できた
（未達成の点）
・リーダーによってグループ間に格差ができた
（成果が上がらなかった点）
・他のグループに対しての助言や手助けがあまりできなかった

12. 活動プロセスの中での苦心・工夫した点

①音楽指導の観点から
（苦心した点）
・リーダーの考えてきた台詞やメロディーのモチーフを、作品の中に、少しでも取り入れられるよう苦心した
・リーダーが自発的に制作に参加するよう苦心した
（工夫した点）
・その場で答えを求めず、＜宿題＞として考える期間を作った
・「台詞と言葉のちがい」や「楽譜の書き方」「リーダーとはなにか」などの講習の時間を設けた

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から
（苦心した点）
・リーダーシップの取れないリーダーを、リーダーとして存在させる事に苦心した
・リーダーの力量によって生じる格差を、いかに少なくするかに苦心した
（工夫した点）
・グループの行動やダメ出しをリーダーを通して指示するようにした
・グループ毎の割り稽古はリーダーに任せるようにした

13. 今後の取り組みに向けての課題

①音楽指導の観点から
・参加者は市内全域から来ており、在籍学校はほとんど全員がことなっている学年毎や学校間に音楽力のレベルの格差をいかにフォローするか
・実施年数を重ねてくると、経験者と未経験の参加者との間に生じる格差をいかに埋めていくか

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から
・育てた（育った）リーダーを今後どのように活用していくか、またリーダーとしての活動の場をどう 設定するか

指導者へのアンケート

（1）リーダーたちが習得したと、指導者が判断した能力

指導者には、事業を経験することで習得したと思う能力に順位を付してもらった。
（結果）
リーダーシップ→コミュニケーション力＝協調性→積極性→遂行力→→計画力

（2）指導者として努力した点

指導者Ａ：リーダーがリーダーであるように、求める回答をリーダー自信から出るように待ったり、しむけたりした
指導者Ｂ：指導者が手を出しすぎず、少しの助言を与えることにより、リーダーが活動できるように、方向付けをすること
指導者Ｃ：なるべく子どもの側から意見が出るまで手を貸すのを待った。また、リーダーを他の子どもたちが尊敬するように見守った
指導者Ｄ：自分たちで考えさせる、作っていく

（3）指導者として工夫した点

指導者Ａ：・指示や伝達事項をリーダーを通して行う、キャストの長にグループリーダーをもってくる
指導者Ｂ：ミュージカルの配役の中で、意図的にたて割の小グループを作り、高学年の児童が中心になって練習をしたり、考えたりする場面を多く設けた
指導者Ｃ：何かのアドバイスをあたえるときに、子どもが考えたい力をそがない様に気をつけていた
指導者Ｄ：リーダーを決めて、たて割のグループ（低学年は高学年の人についていく、一緒に考える、教えてもらう）

(4) 今回できなかったこと

指導者A：グループの中から自然発生的にあるいは自ら進んでリーダーとなる子どもがいなかった（それまで待てなかった）、音楽的レベルとリーダーとしての人間的資質が必ずしもかね備わっていなくて、育てきれなかった

指導者B：短期間であったため、すぐにリーダー性を発揮できた児童もいたが、なかなかグループをうまくまとめられない児童もいた

指導者C：子どもの力を引き出せるように、と思い真柄も、何かと口を出してしまった。思った以上に子どもたちは力をもっているのに驚いた。もっともっと上手な関わり方が出来るはずだったと思う

指導者D：記載なし

(5) 今後すべきこととしたいこと

指導者A：音楽を通じての人材育成である以上、音楽力の向上抜きには考えられない幅広い人間力と、その上に音楽の基礎を、ミュージカルという「歌う、踊る、演じる」などの総合芸術を通じて身に付けた上で、協調性や思いやりの心、向上心などとともの、指導者ともども成長していけるような活動にしていきたい。この事業を通して音楽リーダーとしてやっと芽生えた自覚を、次の活動で活かせるようなプログラム、講座を企画していきたいと考えている

指導者B：左記のような児童に対して、どのような助言をしていったら効果的なのか、色々な事例を通じて継続して学習していきたい

指導者C：他の先生方のように、もっともっと子ども側にいろいろなことを託せる、何をどこまで託せるかを見極める力をつけたい。そして、もちろん自分の持っている知識は惜しまず伝えていきたいし、子どもたちからもいろいろなことを吸収していきたい

指導者D：改めて子どもたちの力、もっている力など素晴らしいと思いました。今後、またこの場所で、違う場所で（地元も含めて）行える機会を是非つくりたいと思います。子どもたちに関わって、自分自身も勉強していきたい（得るものがたくさんあるので）

リーダーたちへのアンケート

リーダーたちには、事業開始前と終了後に同じ質問項目によるアンケート調査を実施した。1から5までの5件法で回答してもらい、事業前後でそれぞれの9項目の平均値を比較した。

（結果）

自信がついた能力

・グループをリードできる

自信をなくした能力

・みんなの意見をまとめるのができる　・人の嫌がることができる

変化しなかった能力

・みんなの悪いところは注意できる　・友達が失敗したら助けてあげられる　・友達の前で自分の意見が言える

・グループで行動できる　・計画を立てて行動できる　・今何をしたらよいかがわかる

調査報告　調査員:久保田慶一

(1) 事業の目的とする効果・成果について

①子どものリーダーたちに企画力、問題解決力が身についてきた。　→かなり達成された

②子どものリーダーたちの指導力、学習力の向上がみられる。　→ほぼ達成された

③子どものリーダーたちが将来への夢をもち、意欲的に考える事につながっている。　→かなり達成された

④異学年や地域の大人たちとの交流を通じて社会性が身についてきた。　→かなり達成された

⑤本物の音楽や楽器の体験を通して音楽の素晴らしさを学ぶことができた。　→かなり達成された

⑥合奏・合唱などの共同作業を通じて協調性や社会性を育むことができた。　→かなり達成された

（2）総評

市原子ども音楽セミナーの特徴は、小学生を対象として、創作ミュージカルを演奏することになる。参加した20名ほどの児童・生徒は、自分たちでストーリーを考え、また音楽のモチーフを考案して、講師がアレンジして曲にしていく。

今回のセミナーでは、中学生1名と小学生6名（うち6年生が1名、5年生が5名）がリーダーとして参加した。これらのリーダーの多くが数年前からのセミナーの参加経験者で、講師陣との連携はなかなかすばらしい。リーダー各人が自分の役割を認識していたように思われる。

参加した児童やリーダーのほとんどは、普段は異なる学校に通学しており、セミナーでは年齢だけでなく、学校の相違を超えた、活動が展開されたことになる。

リーダー役を希望した理由は多くは保護者に言われたと答えていたが、リーダーの多くはすでに学校なので、委員会活動を通して中心的な役割を担っていたように思う。反面、このような学校での活動が少ないリーダーもいたが、このセミナーの活動を通して自信がついた、積極的に委員に立候補したいと思うようになったと答えている。

リーダーとして活動することは、本人の自信につながり、またコミュニケーション力をつけるうえで、貴重な経験になったように思う。また終了後のインタビューでは、リーダーたちのしっかりとした応対に講師陣も感動し、同時に、活動の重要さを再認識することができたように思われる。

4　田浦おんがくっ子塾（神奈川県横須賀市）　実施責任者:津野 久美子

【事業報告書】

1. 事業の目的	①小学校高学年や中学・高校生が、効果的な音楽学習と交流の事業の企画･実施に参加し、子どもたちを指導する活動を通じて、小学校高学年や中学・高校生のリーダーシップを養うこと。 ②音楽を教える経験と、子どもたちと音楽の感動を共有する経験を通して、小学校高学年や中学・高校生が音楽を学ぶことの大切さと喜びを知り、人を思いやる豊かな心や感受性と、人と共に働く協働性・社会性を育むこと。 ③地域のリーダーとしての経験をきっかけとして、地域の音楽文化の大切さを学ぶこと。		
2. 推進する地方公共団体名（教育委員会担当課等）	横須賀市企画調整部文化振興課		
3. 教室名	田浦おんがくっ子塾		
4. 実施場所	田浦コミュニティセンター・長浦コミュニティセンター・コモンハウス	5. 実施回数	12回
6. 講師等	講　師　数　　4人	講師謝金　　3,100円	
	参加講師氏名（全員） （補助含む）	津野 久美子　澤ノ井 裕子　瀬下 真弓　石川 薫　村瀬 美紀	
	安全管理数　　1人	安全管理員謝礼　　700円	
7. 参加者 （1回あたり）	①子ども（生徒）　　16人　　（幼児の参加　無　）		
	②小学校高学年、中学・高校生（リーダー役）　　概ね　小　4人、中　0人、高　2人		
8. 参加者の募集の方法	①子ども（生徒）	・小学校（田浦地区3校）でぽチラシ配布 ・田浦コミニュティセンター・長浦コミュニティセンターでのチラシ配置 ・学校等、公共施設にポスター掲示	
	②小学校高学年、中学・高校生 （リーダー役）	・小学生：チラシ配布により公募、これまでのおんがくっ子塾参加者に声かけ ・中学生：これまでの子ども教室参加者を直接勧誘・こども青少年育成課に相談 ・高校生：これまでの子ども教室参加者を直接勧誘・こども青少年育成課に相談	
9. 全般を通じて育成の対象となったリーダー数	小学生　4人、中学生　0人、高校生　2人		

10. 計画した活動の実施内容

①音楽指導活動の内容
第1回：さわやか音楽祭、準備会議出席
第2回：本事業のコンセプト説明・カリキュラム内容の相談・敬老会との打ち合わせ
第3回：課題曲の模範演奏鑑賞。パート決めと練習
第4回：お年寄りに喜んでもらう演奏のために、演奏とパフォーマンスの練習
第5回：ボランティア演奏会の通し練習。お祝いカードの製作
第6回：敬老会ボランティア演奏
第7回：課題曲のレベルアップバージョンの模範演奏の鑑賞。パート決めと練習
第8回：リハーサル。舞台小物と発表衣装の作製
第9回：練習
第10回：さわやか音楽祭リハーサル
第11回：さわやか音楽祭参加
第12回：反省会とクリスマス会

11. 目指した成果・目標に対する達成状況

①音楽指導の観点から
（達成できた点、成果が上がった点）
（小学生）・パートリーダーとしてお手本になる演奏
（高校生）・ピアニカ合奏の全体練習が指導できる
・ボディパーカッションの指導
・バレルドラムのリズム演奏の指導
（未達成の点、成果が上がらなかった点）
（小学生）・パートリーダーとして担当パートを指導できるレベル
（高校生）・ほぼ達成

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から
（達成できた点、成果が上がった点）
（小学生）・ボランティア演奏・音楽会で自己紹介と自分達の演奏目的がアピールできるレベル
（高校生）・ボランティア演奏とさわやか音楽祭の違いを考慮した司会進行ができ、小学生の手本となるレベル
・会場のスタッフとして率先して動けて、小学生を誘導できるレベル
（未達成の点、成果が上がらなかった点）
（小学生）・低学年の子どもたちをリードする力
（高校生）・言われたことはよくできるが、自分で工夫・創造する力

12. 活動プロセスの中での苦心・工夫した点

①音楽指導の観点から
（苦心した点）
・ただの音楽をするだけの授業的なものにしない。
・仲間にうちとけて楽しんで音楽をさせる。
・音楽的なレベルが違う
（工夫した点）
・目標（発表の場）を2回企画し、やる気と達成感を持たせる
・学校、学年を超えた集まりなのでゲーム的な要素のカリキュラムを取り入れ楽しませ、 心の交流を図る
・開講時間より30分早くから特別レッスン時間を設けてフォロー

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から
（苦心した点）
・リーダーとしての参加者を募ること
・小学5･6年生リーダーと高校生リーダーの力の違いにあった指導・リーダーとしての自覚を持たせる、特に小学生リーダー
（工夫した点）
・横須賀市こども青少年企画課に相談
・今までの参加者にダイレクトメールと電話
・リーダー（高校生）とサブリーダー（小学生）として位置づけて対応
・楽器の準備や低学年の子ども達の誘導を促す
・リーダーとサブリーダーにはほかの子どもが見てもわかるように同じTシャツを着せる。
・リーダーは事前にセミナー進行のイメージを持ち練習
・指導でうまくいかない点など反省会でディスカッション

13. 今後の取り組みに向けての課題

①音楽指導の観点から
・毎週土曜日活動の短期集中型で実施したことは、次回のカリキュラムや進度の考慮がしやすく、参加者も意欲的に参加していた。
・2ヶ月のうちに演奏目的の異なる発表の場を設定し、演奏する意味や目的を話し合い音楽の持つ有効性を感じて欲しかったが、練習に追われてしまった。
・達成感や充実感はあったと思うが、もう少し実技だけでない考え感じるセミナーにしたかった。
・交流目的で行った音楽題材のゲームは、仲良しになるのにとても効果的であったので、今後、遊びながら音楽に触れ楽しんでもらえるものを考えたい。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から
・毎週土曜日活動の短期集中型で実施したことは、次回失敗しないように、もっとよくできるようにと、反省点がよく活かせたと思う。
・聴いてもらう客層や演奏する目的にあわせたプログラムは大変であったが、事前打ち合わせなどから参加し企画に加わった高校生リーダーは、お姉さん的存在で小学生をよくリードしていた。
・小学5，6年生のサブリーダーは自他共に自覚が足りなかったことは否めない。お手伝いになってしまったようだ。
・リーダー育成は本来、10回程度のセミナー体験でなせるものではなく、今後も継続していく中で、小学生リーダーも活躍できることになると思う。
・高校生リーダーも今回は初めてなので、指導のコツや方法を手取り足取り教えてしまい、セミナー中も困った様子にはつい手出し口出ししてしまったのだが、じっくり自分で考え対処できるように待つことも必要であったかもしれない。
・2ヶ月間だけでリーダーシップが身につくことは難しいので、継続した教室を実施できる事を望む。

指導者へのアンケート

（1）リーダーたちが習得したと、指導者が判断した能力

指導者には、事業を経験することで習得したと思う能力に順位を付してもらった。
（結果）
積極性→リーダーシップ→コミュニケーション力→→協調性→遂行力→→計画力

（2）指導者として努力した点

指導者Ａ：どこまで任せるか、実際のセミナーの中には打ち合わせや練習では想像できない場面があり、リーダーの戸惑う姿にどのように対応したらよいか、試行錯誤していた点
指導者Ｂ：ジュニアリーダー対象者との密なコミュニケーション（準備の手伝い、反省会など）
指導者Ｃ：リーダーやサブリーダーに考えてもらい、なるべく意見を取り入れるようにした点、やり方のイメージをつかんでもらうためアドバイスしたり、本番では補助的に動いた点

指導者Ｄ：なるべく一緒に創り上げていくように、リーダーの目線になって考えてみたり、私たち指導員がどこまでか関わったらよいかを常に考えてやってきた

(3) 指導者として工夫した点

指導者Ａ：反省会でリーダー、指導員でよく話し合い、考え検討し、というコミュニケーションをとった。そしてすぐに手助けせず、リーダーの対応を待ち、様々な場面を体験させようと心がけた点

指導者Ｂ：ジュニアリーダーを中心にゲーム・遊びのコーナーを作り、連帯感を持てるようにした

指導者Ｃ：Ｔシャツを配布し、ひと目で自分たちの役割がわかるようにした点、本番の司会進行、ピアノ伴奏を任せた点

指導者Ｄ：リーダーを自覚してもらえるように、また、他の児童からリーダーとして見てもらえるようにリーダー用の名札・ユニフォームなどを用意した

(4) 今回できなかったこと

指導者Ａ：継続した活動。
野球チームやサッカーチームなどスポーツ系の活動は地域の後援を受け年間を通じて行われているが、なかなか音楽活動は認められない。今回のように10回のセミナーではまだ入り口なので、興味を持ち始めたところで終わってしまって子どもたちも残念がっていたし、私たち指導員も残念に思っている

指導者Ｂ：色々な楽器のワークショップ、音楽鑑賞（箏、バイオリン、ブラスなど）
音楽を身近に感じてもらえるのでいいと思います

指導者Ｃ：小学生はまだ英語に慣れていないのか、日本人だからか、英語の歌詞の部分は少し照れて歌っていたのでもっとかっこよく歌って欲しかったです。また、中高生は勉強やクラブ活動も忙しく、募集が大変でした

指導者Ｄ：事業の期間が短かったので、リーダーが育ったかと思ったら終わってしまったので、更に成長する過程を見ることが出来なかった

(5) 今後すべきこととしたいこと

指導者Ａ：地域の行事に参加できる音楽活動団体（おんがくっ子塾）を短期でなく通年安定して活動させて、音楽を身近なものに感じさせてあげたい

指導者Ｂ：この音楽っこ塾は継続してこそ成果が現れると思うので、ぜひ今後とも計画的かつ継続的な事業として展開してほしいと思います

指導者Ｃ：あくまで希望ですが、各専門分野による指導を行い、本物を見せたり聞かせたりすることによって憧れを抱いたり、感動させることができたらと思います

指導者Ｄ：高校生以外の小中学生のリーダーをじっくり育てたい。
継続してこの事業が出来るなら、今回参加してくれた子どもたちの中に次回リーダーになってもらいたいと思う生徒がいたので、ぜひ継続してもらいたい

リーダーたちへのアンケート

リーダーたちには、事業開始前と終了後に同じ質問項目によるアンケート調査を実施した。1から5までの5件法で回答してもらい、事業前後でそれぞれの9項目の平均値を比較した。

（結果）

<u>自信がついた能力</u>

・みんなの意見をまとめるのができる　・友達が失敗したら助けてあげられる　・グループをリードできる
・今何をしたらよいかがわかる

<u>自信をなくした能力</u>

・グループで行動できる

<u>変化しなかった能力</u>

・みんなの悪いところは注意できる　・人の嫌がることができる　・友達の前で自分の意見が言える　・計画を立てて行動できる

調査報告　調査員:澤崎眞彦

(1) 事業の目的とする効果・成果について

①子どものリーダーたちに企画力、問題解決力が身についてきた。　→かなり達成された
②子どものリーダーたちの指導力、学習力の向上がみられる。　→かなり達成された
③子どものリーダーたちが将来への夢をもち、意欲的に考える事につながっている。　→ほぼ達成された
④異学年や地域の大人たちとの交流を通じて社会性が身についてきた。　→かなり達成された
⑤本物の音楽や楽器の体験を通して音楽の素晴らしさを学ぶことができた。　→かなり達成された
⑥合奏・合唱などの共同作業を通じて協調性や社会性を育むことができた。　→かなり達成された

(2) 総評

横須賀の事業に於いては、小学生から高校生の児童・生徒の中から、リーダーシップを養うことのできた子どもが育ったと言える。

活動としては、日常の音楽活動の成果として、「さわやか音楽祭」と「敬老会のボランティア演奏会」への参加を目標に進められていた。リーダーに指名された子どもは、音楽会を開催するにあたって、準備会議、打合せへの参加等々を通して、裏方の仕事も体験的に学んでいた。さらに、音楽会については、集まった児童・生徒のそれぞれの子どもの希望や特性を考え併せてのパート決め、さらに練習の内容、方法、演奏曲目の決定、発表衣装の製作、お年寄りに喜んでもらうための方策（カード作り）、通し練習など、集団での活動内容についても検討を行っていた。これらを見ても、リーダーとしての役割を十分に踏まえて行動していたと言える。

この活動を通して、「生涯学習音楽指導員」の講師の方々との連携の取り方など、全体を考えながらの活動が見られ、「生涯学習音楽指導員」の適切なアドバイスが十分に機能していたと言えるものであった。

以上の内容と活動から見て、本事業に参加した児童・生徒の達成感や満足度、音楽的成長、さらにリーダーとなった個々人のリーダーとしての資質の育成が果たされたと言える。このようなことから、本事業の目的が達成されていたと言えるものであった。

5　富士宮子ども音楽セミナー（静岡県富士宮市）　実施責任者:赤池 よし子

【事業報告書】

1. 事業の目的	①小学校高学年や中学・高校生が、効果的な音楽学習と交流の事業の企画·実施に参加し、子どもたちを指導する活動を通じて、小学校高学年や中学・高校生のリーダーシップを養うこと。 ②音楽を教える経験と、子どもたちと音楽の感動を共有する経験を通して、小学校高学年や中学・高校生が音楽を学ぶことの大切さと喜びを知り、人を思いやる豊かな心や感受性と、人と共に働く協働性・社会性を育むこと。 ③地域のリーダーとしての経験をきっかけとして、地域の音楽文化の大切さを学ぶこと。		
2. 推進する地方公共団体名（教育委員会担当課等）	富士宮市教育委員会（教育文化課）		
3. 教室名	富士宮子ども音楽セミナー		
4. 実施場所	富士宮市富士根北公民館	5. 実施回数	8回
6. 講師等	講　師　数　　7人	講師謝金　　3,100円	
	参加講師氏名（全員）	赤池よし子、芦澤嘉津、飯塚杏子、落合和恵、齋藤麻友、鈴木康代、篠原千恵	
	安全管理数　　1人	安全管理員謝礼　　700円	
7. 参加者（1回あたり）	①子ども（生徒）　　30人　　（幼児の参加　有　）		
	②小学校高学年、中学・高校生（リーダー役）　　概ね　小　8人、中　0人、高　3人		
8. 参加者の募集の方法	①子ども（生徒）	募集のちらしを各公民館や学校に配布。地元のコミュニティー新聞などに掲載。教育委員会を通じて募集ちらしを配布。コミュニティＦＭ放送による呼びかけ。	
	②小学校高学年、中学・高校生（リーダー役）	募集のちらしを各公民館や学校に配布。地元のコミュニティー新聞などに掲載。講師の生徒などに声をかけた。教育委員会を通じて募集ちらしを配布。コミュニティＦＭ放送による呼びかけ。	
9. 全般を通じて育成の対象となったリーダー数	小学生　4人、中学生　0人、高校生　2人		

10. 計画した活動の実施内容

①音楽指導活動の内容

第1回：「リーダーの育成1・箏」全体の計画説明・箏の歴史、楽器の成り立ちなどの説明、箏の練習・リーダーの役割

第2回：「リーダーの育成2・キーボード」キーボードの扱い方、セミナーで取り上げたい曲の提出、基本練習、参考曲の演奏

第3回：「セミナーの開始」講師、リーダーの紹介、箏は箏の説明、さくらの練習、キーボードは基本練習・曲目演奏

第4回：「箏とキーボードの演奏の仕方」箏は弦について、七の弦の位置を覚える。キーボードはぶんぶんぶんとドレミの歌の練習

第5回：「箏とキーボードの演奏の仕方」箏はさくらの復習・ひなまつりにはいる。キーボードは前回の復習とおまつりほたるの譜読み

第6回：「箏とキーボードの演奏の仕方」箏はさくらの復習、3つ爪をはめる五十の合わせ爪の弾きかた、キーボードは前回の復習おまつりほたる、ほたるチャイナの譜読み

第7回：「箏とキーボードの演奏」箏は最終日の発表会に向けて練習さくらの前奏や後奏の練習、キーボードはドレミの歌やほたるの総練習

第8回：「箏とキーボードの発表会」調査員の先生方をお迎えして、最終練習をして5名ずつ発表、修了書の授与

②小学校高学年、中学・高校生のリーダーを育成するための具体的活動

第1回：リーダーの育成、箏の演奏の仕方を練習、歴史的背景などを聞く

第2回：リーダーの育成　キーボードの演奏の仕方、受講生とのコミュニケーションの取り方など教える。

第3回～8回：セミナーの30分前にきて、前回の復習や予習をする。また受講生への接し方などアドバイスをした。

11. 目指した成果・目標に対する達成状況

①音楽指導の観点から

（達成できた点、成果が上がった点）

・箏については、日本の楽器を知り、その良さを学ぶことができた。歴史なども一緒に学び、造詣が深くなった。日本の音階の雰囲気をとらえることができた

・鍵盤楽器 ・基礎知識（読,譜、音符、休符、拍子、強弱他）音階を理解することができた。

・簡単な曲を両手で弾くことができた。

・洋楽器と和楽器の違いを知り、それぞれの良さを感じることができた。

・学校音楽では触れる機会の少ない日本音楽に親しむことにより、自国の文化に誇りを持つきっかけにすることができた。

・広く音楽文化への関心、興味を深め、仲間とともに音楽を通して交流することの喜びを味わうことができた。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

（達成できた点、成果が上がった点）

・最初戸惑っていたリーダーが頼りにされるようになり、自信がつき積極的に受講生に話しかけ、相談にのっていた。

・受講生の中でも自分ができると　他の人に教えていた。

・異学年の異世代間体験ができた。

・受講生への接し方、言葉遣い、など教えることの難しさを知り、個々に工夫し相手の事も考えて接した。

・人を思いやる心や感受性も養われ　リーダーとしての責任感が芽生えた。

・教え方に関して　リーダーが講師に質問するなどして、受講生　リーダー、講師の連携が生まれ効果が上がった。

・片づけ準備などもすすんで、手早くできるようになった。

・多様な音楽のよさを、感じ、思いや意図をもって音楽を指導する力が育成できた。

（未達成の点、成果が上がらなかった点）

・箏は全体の生徒に均等に教えるのが難しかった。受講生が幼稚園や低学年が多かったためと思われる。

・セミナー企画意見への参加が　曲目などの取り上げはできたが、その他セミナーの進め方などの運営までは難しかった。

12. 活動プロセスの中での苦心・工夫した点

①音楽指導の観点から

（苦心した点）

・学年が低学年が多いため時として　頑なに「できない！」と投げ出す子にリーダーがどのように接し、教えていくか難しかった。

・キーボードも箏もセミナーお休みした生徒が次の段階へ進めず、個人レッスンではその子に合わせた進度をせんたくできるが、大勢の中で　進度を保ちなおかつ、遅れている生徒にも気を配る事に苦心した。

（工夫した点）

・教材研究をして、簡単だけれどで弾き引きごたえのある曲を選択。ベルや歌などもとりいれた。

・箏ではリーダーが前奏などを弾けるように事前けいこをして、音楽に厚みが感じられるようにした。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

（苦心した点）

・性格的に消極的なリーダーが、受講生の中に自然に、うちとけるように配慮すること。

・リーダーとしては強力な引率力がなくとも、それは個性であり、そのことを否定せず、それを長所とし伸ばしていく点。

・達成感を体験させながら、リーダーとしての責任を持たせる事。

（工夫した点）

・準備片づけを通じて　楽器の扱い方を自然に学べるようにした。

・リーダーは個人だけでなく、全体のまとめの指導員の役目も取り組んだ。

・ほめることにより次への自信につながるように気を配った。

・講師の話し合いも重ね、リーダーの活動の場を多く作った。

・受講生の横にいつもリーダーを配置して、声かけを実践してもらった。

13. 今後の取り組みに向けての課題

①音楽指導の観点から

・多人数の一斉講座では、意思表示の積極的な受講生に、目が奪われてしまうが、自分の思いや困難などをアピールできない生徒をどのようにすくいあげて対応していくか。

・今回は、低学年が多かったので、楽典的なことは、あまり細かく取り上げなかったが、もっと体系的に低年齢でも、学習できる方法を模索すること

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

・リーダーの構成が、小学生と高校生とバランスが悪く、それぞれの年齢に応じた育成が必要である。

・今回は小学生に照準があたってしまいがちであった。

・それぞれのリーダーが、それまで自分では気がつかなかった自らの良さを、もっといろいろな方向からひき出していく取り組みが必要である。

指導者へのアンケート

（1）リーダーたちが習得したと、指導者が判断した能力

指導者には、事業を経験することで習得したと思う能力に順位を付してもらった。

（結果）

コミュニケーション力→協調性→リーダーシップ→積極性→遂行力→→計画力

(2) 指導者として努力した点

指導者A：受講生もリーダーもみんな知らない者同士、初めての顔合わせで不安がいっぱい。
指導者B：その子どもの個性を見つけ、それを長所とし、褒め方や教え方に気をつけ、達成感を与えながら次への興味を持たせる
指導者C：リーダーが受講生に指導しやすくなる環境の設定ができるようにリーダーの能力の範囲で指導を促すこと
指導者D：特にはじめ、緊張していた（リーダーも子どもも）ので、なるべく元気よく笑顔で接するように努めた
指導者E：邦楽に関心を持っていく児童・生徒が多く、キーボードとお箏の2つを1日で体験できるようにしていた点
指導者F：生徒の活動の場を多く作り、コミュニケーションをはかれるようにした
指導者G：まだピアノや箏の経験のない生徒にもこのセミナーをきっかけに音楽の楽しさを体感できるようにする

(3) 指導者として工夫した点

指導者A：できたところは褒めて自信をつけ、達成感を与えるように仕向けた
指導者B：・箏の準備、片付けも一緒にやってもらい、箏の扱い方や弾くこと以外の大変さを自然に覚えてもらう、リーダーには指導者になってもらう直接指導させる、自分でやった方がすぐにすむことでも、リーダーさんに頼んでやってもらう
指導者C：以前は全体を見渡して、生徒たちの動きが読めず、父兄から意見を受けたが、今回が人数的にも回数も内容もバランスよくできて、講師の打ち合わせを重ねた結果、よいものになったと思う
指導者D：リーダーが同じ子のところにずっと居ないように、そこにいき、「前のほうの二人を見て」とか、「後ろのほうもまわってみて」と移動させた。
かなり手をやいているような時は手伝ったが、なるべくリーダーの仕事を褒めるように声かけをした
指導者E：リーダーがセミナーの中で講師役となり、指体操やゲーム的なことをして受講生を引っ張った
指導者F：児童1人1人が自ら頼られているという自信を持たせるために、必ず受講生1人にリーダーを配置して個人対個人の接点を多くした
指導者G：小さな生徒さんにはできるだけ横に付き、声掛けを行った。また、キーボードでは、階名がまだ分からない、音が読めていない生徒さんもあり、不安な気持ちにさせないよう一緒に歌う、運指を見てあげる等、できるだけ全体の目配りに努めた

(4) 今回できなかったこと

指導者A：受講生が幼稚園の希望者も数名あり、全員低学年だったので、当初の予定を多少変更したこと。（でも思ったより覚えてくれコンサートに出演予定です）
指導者B：箏の場合、全体の生徒を空いてにリーダーが教えるというのはなかなか難しかったので、次回は何回かリーダーに任せてできるように考えていきたいと思います
指導者C：特にありません。しかし、セミナー後の父兄アンケートの内容から、講座内容や受講費の温度差を感じました。途中に父兄のご意見や感想を聞く機会があってもよかったかと思いました
指導者D：もう少し多くのテキスト（曲）を研究してみてもよかった。あと2回あってもよかったと思う
指導者E：リーダーを中心に、パート別にグループにして合奏するところまでできるとより深くなると思った
指導者F：講座内容の進め方など、全体の進行に関わることにリーダーにもっと関わってもよかったと思われる
指導者G：指導員として初めての事業とのことで、勉強させていただくつもりで望んだ。中でも、集団指導の難しさ（参加者の年齢差、意識、自分自身が集団指導に不慣れ）を強く感じた

(5) 今後すべきこととしたいこと

指導者A：今回新しい指導員3名が加わり、全員ができることを話し合った結果、セミナーの回数も少なく、キーボードと箏に限定したが、ほかの楽器にも触れる機会を作ってあげたい
指導者B：今回の受講生が年長さんの子が「お箏をやって褒められてたからお箏をやっていいですか？」と言って来てくれた。お母様と話したところ、家で褒めるということがあまりなく、子どもがすごく喜んでいて、はじめはお母様も付いてきていたのですが、いないほうがよいのではと感じ、子どもさんだけで受講させていたそうです。
学校と違い、セミナーのように音楽専門の先生方にふれあい、褒められることにより、自分を認められ自身に繋がっていくということが子どもたちの成長に大きな役割を果たすと強く感じました。人数が多くても1人1人に心を配り、セミナーならではの体験をしてほしいと思います
指導者C：リーダーをまとめるリーダー的指導ができる生徒の育成セミナー
指導者D：リーダーの子どもたちが大きく成長したと思う。もっと多くの子どもたちにリーダーを経験して欲しいので、できたら富士宮地区（富士市、富士宮市、芝川市）のあちこちで開講できればと思う
指導者E：お箏以外の邦楽も触れることができると、邦楽への関心が広がると思う。見んなで何か1つのものをやり遂げるようなものを考えてみたい

指導者Ｆ：今回は楽器の習得という活動でしたが、それをさらに一歩進めて、習得した楽器を使ってグループごとにアンサンブルを企画したり、小さなミュージカル風に仕立てたりという発展的活動をしてみたい

指導者Ｇ：左記の点から、異年齢の子どもたちが一緒に行動したり、演奏したりするのは貴重な経験である。大きい子は素直な気持ちで小さい子をいたわり、小さい子は大きい子を頼り、慕う様子が見られた。それはとてもほほえましい光景であったが、読譜、リズムパターン、指使いなど音楽指導の観点から考えると、リーダーとはいえ完全なフォローは難しいように思える。これについては今後の課題として取り組みたい

リーダーたちへのアンケート

リーダーたちには、事業開始前と終了後に同じ質問項目によるアンケート調査を実施した。1から5までの5件法で回答してもらい、事業前後でそれぞれの9項目の平均値を比較した。

（結果）

自信がついた能力

・みんなの意見をまとめることができる

自信を失った能力

・友達の前で自分の意見が言える　・グループで行動できる　・グループをリードできる

変化しなかった能力

・みんなの悪いところは注意できる　・人の嫌がることができる　・友達が失敗したら助けてあげられる

・計画を立てて行動できる　・今何をしたらよいかがわかる

調査報告　調査員:久保田慶一

（1）事業の目的とする効果・成果について

①子どものリーダーたちに企画力、問題解決力が身についてきた。　→ほぼ達成された

②子どものリーダーたちの指導力、学習力の向上がみられる。　→かなり達成された

③子どものリーダーたちが将来への夢をもち、意欲的に考える事につながっている。　→かなり達成された

④異学年や地域の大人たちとの交流を通じて社会性が身についてきた。　→かなり達成された

⑤本物の音楽や楽器の体験を通して音楽の素晴らしさを学ぶことができた。　→ほぼ達成された

⑥合奏・合唱などの共同作業を通じて協調性や社会性を育むことができた。　→かなり達成された

（2）総評

富士宮子ども音楽セミナーの特徴は、小学校低学年の児童だけでなく、幼稚園児（保育園児）約30名を対象として、キーボードと箏の演奏を経験することにある。今回のセミナーでは、高校生3名（うち2年生が2名、1年生が1名）と小学生8名（うち6年生が2名、5年生が5名、4年生が1名）がリーダーとして参加した。このような年齢構成からも明らかなように、講師陣たちだけでなく、リーダーたちの課題となったのは、年齢の低い児童や園児とのコミュニーケンションであり、またどのようにして指導していくかであったに違いない。リーダーたちは、理解してくれていないとわかると、表現を変えたり、話題を変えたりするなどの工夫をしたようである。小学生の児童には難しい課題であったようであるが、教える喜びを感じると同時に、苦労も理解できたのではないだろうか。親が保育園で勤務しているという児童は、親の大変さがわかったと発言したのが、印象的であった。

リーダー役の児童・生徒のほとんどがリーダー役を希望し、自分たちの弟や妹とは違う幼い子どもたりを教えるという目標を持っていた。特に高校2年のひとりは、将来保育士になりたいので、子どもと接する経験をしたいと考えて参加したというし、また高校1年生のひとりも、将来臨床心理士など人と接する仕事をしたいのでという、目標をもっていた。セミナー終了後のインタビューでは、自分の職業イメージが明確になったこと、また今後の課題もわかったと発表してくれた。さらに高校2年生の男子生徒は地域での社会貢献の意義をきちんと理解していた。

幼い児童や園児を指導するのは並大抵の苦労ではないだろう。しかし幼い頃に、特に、箏を経験できたことは、将来にとってとても有意義であったと思う。講師陣やリーダーの児童・生徒たちのご苦労を讃えたい。

6　三好子ども音楽セミナー（愛知県みよし市）　実施責任者:新谷 啓子

【事業報告書】

1. 事業の目的	①小学校高学年や中学・高校生が、効果的な音楽学習と交流の事業の企画･実施に参加し、子どもたちを指導する活動を通じて、小学校高学年や中学・高校生のリーダーシップを養うこと。 ②音楽を教える経験と、子どもたちと音楽の感動を共有する経験を通して、小学校高学年や中学・高校生が音楽を学ぶことの大切さと喜びを知り、人を思いやる豊かな心や感受性と、人と共に働く協働性・社会性を育むこと。 ③地域のリーダーとしての経験をきっかけとして、地域の音楽文化の大切さを学ぶこと。		
2. 推進する地方公共団体名（教育委員会担当課等）	みよし市教育委員会　教育行政課		
3. 教室名	三好子ども音楽セミナー		
4. 実施場所	新屋児童館	5. 実施回数	8回
6. 講師等	講　師　数　　4人	講師謝金　　3,100円	
	参加講師氏名（全員） （補助含む）	新谷啓子　富田千里　西塚暁美　水谷真樹　鈴木由佳子 神谷美香　岡本悦子　柏井明子	
	安全管理数　　4人	安全管理員謝礼　　700円	
7. 参加者 （1回あたり）	①子ども（生徒）　　35人　　（幼児の参加　有　）		
	②小学校高学年、中学・高校生（リーダー役）　　概ね　小　2人、中　5人、高　3人		
8. 参加者の募集の方法	①子ども（生徒）	・みよし市広報への記載。市内小学校へのチラシ配布による公募。みよし市役所 ・児童館・生涯学習センターなどチラシ設置による公募。	
	②小学校高学年、中学・高校生（リーダー役）	これまでのみよし子ども音楽セミナー受講生、音楽大学受験希望者、吹奏楽・オーケストラ・コーラスなどの経験を持ち、各学校のクラブ活動で活躍している生徒に参加を呼びかけ募集。チラシ設置。	
9. 全般を通じて育成の対象となったリーダー数		小学生　2人、中学生　5人、高校生　3人	

10. 計画した活動の実施内容

①音楽指導活動の内容

第1回：リーダー打ち合わせ会議、・指導内容：ボディパーカッション・ミュージカル・アンサンブル

第2回：・ボディパーカッション「ほかほかパン屋さん」、・共通講座「人魚姫」　◇「WAになっておどろう」
　　・アンサンブル「おもちゃの交響曲」、・保護者説明会…モデル事業実施について

第3回：・「ほかほかパン屋さん」各パート指導、・「人魚姫」歌・ダンス・せりふ・演技指導（第1・2場）
　　・「おもちゃの交響曲」各パート指導・練習、・楽器体験・観賞・説明講座（Vn）

第4回：・「ほかほかパン屋さん」各パート指導、・「人魚姫」歌・ダンス・せりふ・演技指導（第3場）
　　・「おもちゃの交響曲」各パート指導・練習、・楽器体験・観賞・説明講座（Ｔｐ／Tb）

第5回：・「ほかほかパン屋さん」各パート練習、・「人魚姫」歌・ダンス・せりふ・演技指導（第4場）
　　・「おもちゃの交響曲」各パート指導・練習、・「WAになっておどろう」歌練習

第6回：・修了コンサートリハーサル、「ほかほかパン屋さん」仕上げ、「人魚姫」通しリハーサル（1場～4場）
　　・「おもちゃの交響曲」仕上げ、「WAになっておどろう」仕上げ、「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」練習

第7回：修了コンサート　「ほかほかパン屋さん」「人魚姫」「おもちゃの交響曲」「WAになっておどろう」
　　「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」　　修了証書・皆勤証・リーダー認定証授与

第8回：みよし市生涯学習発表会（主催：みよし市・みよし市教育委員会）
　　「ほかほかパン屋さん」「おもちゃの交響曲」「汽車は走るよ」「WAになっておどろう」　「人魚姫～♪海のパラダイス」

②小学校高学年、中学・高校生のリーダーを育成するための具体的活動

・ボディパーカッション講座　第2回～第6回　（小4…1人　小5…1人　中1…3人）「ほかほかパン屋さん」…リーダーによる模範ステップ披露、各パート指導（ボイス・ボディパーカッション）「人魚姫」…ダンスステップ指導

・共通講座　第2回～第6回（小4…1人　小5…1人　中1…3人　中2…2人　高1…1人）　ミュージカル「人魚姫」…歌・せりふ・演技指導

・アンサンブル講座　第2回～第6回（リーダー全員　小4～高2）「おもちゃの交響曲」…楽器・楽譜・パート指導、ピアニカ・リコーダー指導、パート模範演奏

・楽器体験・観賞・説明講座（Ｖｎ・Ｔｐ・Ｔｂ）「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」…リーダー全員で模範演奏

・コンサート・イベント企画・演出　第1回～第8回　（リーダー全員…10人）

(1) 小学校高学年や中・高校生が総合的・効果的な音楽学習の体験と交流の事業企画・実施に参画し、ボディパーカッション・アンサンブル・ミュージカルを指導した。

(2) 本物の音楽や楽器鑑賞・体験を通して参加者に様々なジャンルの音楽を体験させ、アンサンブルの楽しさ・　素晴らしさを指導した。（第3回・第4回）

(3) 合奏・歌・ミュージカルなどの完成プロセスを経験し、音楽の　素晴らしさを学んだ。また参加者とともに達成感や喜び、学習成果を共有した。

11. 目指した成果・目標に対する達成状況

①音楽指導の観点から

・本物の音楽や楽器体験を通して、音楽の感動を共有し、楽しさ・素晴らしさを学んだ。

・合奏・ボディパーカッション・ミュージカルの共同作業を通して、音楽を学ぶことの大切さと喜びを知り、人を思いやる豊かな心や感受性・協働性・社会性を育むことができた。

・指導経験を積むことにより、指導力・企画力・問題解決力・学習力の向上が期待できるようになった。

（未達成の点、成果が上がらなかった点）

・音楽高校や大学に進学することを考えている中・高校生は、指導を経験することがキャリア形成に繋がるまでには、まだ時間がかかりそうだ。

・生涯学習音楽指導員は、子どもの音楽指導だけでなく、リーダー育成の経験を通じ、教育者としてのスキルアップ・キャリアアップという成果が生まれるには、もう少し時間がかかりそうだ。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

（達成できた点、成果が上がった点）

・リズムを中心とした音楽的身体表現の、即興的感覚が養われ、音楽をより身近に感じ、自立心・創造性を高めることができた。事業終了時には、小・中学校が指導できるレベルに到達した。

・ミュージカル「人魚姫」の歌・ダンス・せりふ・演技・演出まで参加・指導し、達成感や喜び、学習成果を共有することができた。事業終了時には、ミュージカルの助手ができるレベルまで到達した。

・楽器・楽譜・パート指導、ピアニカ・リコーダー指導、パート模範演奏などを通して、本物の音楽や楽器体験を体験させ、様々なジャンルの音楽やアンサンブルの楽しさを指導できた。事業終了時は、合奏を指導できるレベルまで到達した。

（未達成の点、成果が上がらなかった点）

・ミュージカル「人魚姫」の指導カリキュラムの作成や、キャスト決めの時、なかなか意見が得られなかった。

・コンサート・イベントの企画段階から企画者として参加したが、活発な意見が得られなかった。

12. 活動プロセスの中での苦心・工夫した点

①音楽指導の観点から

（苦心した点）

・楽器体験の選曲に苦労した。

・アンサンブルのパート練習の時、参加者が言うことを聞かないので、開始までに時間がかかった。

（工夫した点）

・参加者の年齢層を考慮し、選曲した。　Vn…「ラブラブラブ」　Ｔｐ／Ｔｂ「さんぽ」

・言うことを聞かない幼児・小学生を根気に注意し、準備するまで気長に待っていた。決して叱らないのも立派だった。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

・土日に部活動や学習塾が集中しており、リーダー全員の参加を確保するのは大変だった。また定期テストや補習があり、無理のないように配慮した。

・リーダー全員で「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」を合奏したが、練習時間の確保が大変だった。

（工夫した点）

・参加できる日を、リーダー打ち合わせ会議で決め、5人は参加できるように話し合った。

・保険に加入して、大切な楽器に触れさせた。

・楽器体験講座の内容を、幼児・低学年用に書きかえた。

・アンケートを実施し、今後の活動・指導に役立てた。

13. 今後の取り組みに向けての課題

①音楽指導の観点から

・楽器体験は好評だったので、次年度の講座は、木管楽器・打楽器にも挑戦したい。

・参加者の顔ぶれが毎回変ったり、人数もセミナー当日にしか把握できないため、物事が徹底できないことがあった。

・3月1回のセミナーなので、次回までにきちんと習得してくることが徹底できない幼児・児童が目立った。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

・自分の可能性に気付き、将来の夢と希望を持ち、何事にも意欲的に取り組む姿勢を身につけてほしい。

・異学年や地域の大人との交流により、異世代交流を経験し、社会性を育んでほしい。

・地域のリーダーとしての経験をきっかけとして、地域の音楽文化の大切さを学んでほしい。

・青少年リーダーとして社会性を高めるとともに、地域の音楽文化の理解を深めてほしい。

指導者へのアンケート

(1) リーダーたちが習得したと、指導者が判断した能力

指導者には、事業を経験することで習得したと思う能力に順位を付してもらった。
（結果）
協調性→積極性→コミュニケーション力→遂行力→リーダーシップ→計画力

(2) 指導者として努力した点

指導者A：小4～高2の10名のリーダーを中心に、ボディパーカッション、アンサンブル、ミュージカル指導を通して、リーダーとして積極的に参加、指導する場を提供した。
指導者B：低年齢の生徒が多かったため、リーダーの活用を生かして上下の関係を大切に助け合ってできるようにメンバー（アンサンブルパート分け、ミュージカルの役、ボディパーカッションのパート）も考えて一緒に見たり考えたり教えあったり助け合えるように、指導員で話し合い、努力した。
指導者C：今回、年齢の低い生徒さんが多かったので、無理なくかつ楽しくリズムやステップやアンサンブルできるように考えた
指導者D：様々な年齢の生徒がいるので、小さい子にはムリなく、大きいこには物足りなくないような内容にすること
指導者E：月に1回のペースで行っているため、子どもたちがすぐに思い出して1回1回たくさん参加できるように歌詞カードを用意したりした
指導者F：月に1回のペースで行っているため、子どもたちがすぐに思い出して1回2回たくさん参加できるように歌詞カードを用意したりした
指導者G：限られた時間の中で、歌、リズム、アンサンブルなど様々な項目を考え、いかに子どもたちの興味をそそり集中できるかを考えること。
指導者H：子どもの中でもリーダーを決め、積極的に参加できるように活動する場を増やした。

(3) 指導者として工夫した点

指導者A：中・高校生のリーダーに楽器体験・説明の講座担当をお願いした。参加者の年齢層を考慮した選曲に心がけた
指導者B：ミュージカルでは分かりやすくできるように台詞と（台本）作成しなおしたり、大小物道具で工夫してイメージ作りをしました。児童がその気になって活動に取組めるように、簡単な衣装も用意してみました
指導者C：生徒さんの中からリーダーを数名出し、先生のように小さい生徒さんをまとめたり、指導させたりした
指導者D：ミュージカルで衣装や小物・背景など、お金をかけずアットホームな雰囲気つくりをしたこと
指導者E：参加している子どもたちが年中～小5なので、小さな子どもでも分かりやすい曲にしたり、小学生でも楽しめる選曲をした
指導者F：参加している子どもたちが年中～小6なので、小さな子どもでも分かりやすい曲にしたり、小学生でも楽しめる選曲をした
指導者G：年齢の様々な子どもたちをどのようにまとめ、楽しく感じられるようにするか
指導者H：弦楽器、管楽器経験者に楽器説明や演奏をしてもらい、他の子どもたちが大変興味をもって聞いていた

(4) 今回できなかったこと

指導者A：月1回のセミナーなので、次回までにきちんと習得してくることが徹底できない幼児、児童が目立った。
指導者B：アンサンブル活動の児童が少なかったので、児童が親しみやすい選曲やもっと演奏したいという気持ちの児童が増えるよう工夫して指導員で考えていきたい。児童へ向けて様々な音楽の活動内容を提供する必要もあると思います。
指導者C：月1回の年8回の講座なので、密に指導できない分、難しいことをあまり要求できなかった
指導者D：8回という少ない講座数で、なおかつ月1回だったので、指導をしても次の時には内容を忘れていることもあり、発表に向けての練習をもっと早く進めておくべきだった
指導者E：月に1回の回数のセミナーで使っている音源を配布したりしていないので、家で練習をしても音源に合わせて練習ができなかったこと
指導者F：月に2回の回数のセミナーで使っている音源を配布したりしていないので、家で練習をしても音源に合わせて練習ができなかったこと
指導者G：限られた時間しかないため、なかなか細かいところまで指導ができなかったところがある。セミナーの日程が1ヶ月に1回のため、前回の内容を子どもたちが忘れてしまうことが多い
指導者H：参加者の顔ぶれが毎回変わったり、人数もセミナー当日にわかるため、なかなか物事が徹底できないことがあった

(5) 今後すべきこととしたいこと

指導者A：年間10講座を通して、音楽をより身近に感じ、自立心・創造性を育てながら、完成度の高いレベルまで曲が仕上がるよう指導したい。リーダー育成にも力を入れたい

指導者Ｂ：今回講座で受講したミュージカルの経験をこのセミナーではじめてミュージカルにチャレンジしてみましたが、児童の積極性や楽しさ、生き生きとした児童の様子を見て、また今回の反省も経験もふまえて、次の年度へ繋げてもう一歩踏み込んで児童と一緒にチャレンジしたいとおもいました。また、指導員の努力と結束力を大切に、さらなるモデル事業の拡大とセミナーの発展へ自ら努力していきたい

指導者Ｃ：生徒さんたちがやりたいと思うことを取り入れたり、自分たちでリズムステップを考えたり、いろいろな楽器に触れさせてあげたいと思う

指導者Ｄ：学校では習わないようなジャンルの音楽や楽器に触れさせたい

指導者Ｅ：年齢層の幅がたくさんありますが、子どもたちが毎回楽しんで参加できるセミナーにしたい。何か1つでもいいので、学んでいける内容にもしていきたいと思っています

指導者Ｆ：年齢層の幅がたくさんありますが、子どもたちが毎回楽しんで参加できるセミナーにしたい。何か2つでもいいので、学んでいける内容にもしていきたいと思っています

指導者Ｇ：子どもが楽しく集中できるように、幅広いジャンルの選曲

指導者Ｈ：毎回のセミナーの参加数を増やし、セミナーで行った内容がきちんと毎回おさえられるように進めて行きたい

リーダーたちへのアンケート

リーダーたちには、事業開始前と終了後に同じ質問項目によるアンケート調査を実施した。1から5までの5件法で回答してもらい、事業前後でそれぞれの9項目の平均値を比較した。

（結果）

自信がついた能力

・みんなの悪いところは注意できる

自信をなくした能力

・友達の前で自分の意見が言える　・今何をしたらよいかがわかる

変化しなかった能力

・みんなの意見をまとめることができる　・人の嫌がることができる　・友達が失敗したら助けてあげられる

・友達の前で自分の意見が言える　・グループで行動できる　・計画を立てて行動するのが得意

調査報告　調査員：今西幸蔵

（1）事業の目的とする効果・成果について

①子どものリーダーたちに企画力、問題解決力が身についてきた。　→ほぼ達成された

②子どものリーダーたちの指導力、学習力の向上がみられる。　→かなり達成された

③子どものリーダーたちが将来への夢をもち、意欲的に考える事につながっている。　→ほぼ達成された

④異学年や地域の大人たちとの交流を通じて社会性が身についてきた。　→ほぼ達成された

⑤本物の音楽や楽器の体験を通して音楽の素晴らしさを学ぶことができた。　→かなり達成された

⑥合奏・合唱などの共同作業を通じて協調性や社会性を育むことができた。　→ほぼ達成された

（2）総評

全体として，うまくできたプログラムの中で子どもたちが生き生きとしている様子を見ることができ，調査委員として満足であった。特に年長のリーダーとなる子どもが年少の子どもを見事にフォローしている様を散見したのが収穫であった。単なる異年齢交流を超えた人間関係の形成が，リーダーによって育まれているのである。また，学生の指導者づくりにも留意されている点を高く評価したい。それには音楽指導員の先生方同士の協力体制が確立されており，それぞれの先生が明確な仕事分担をされていたのが印象的であった。

活動内容については，楽器に触れることによって楽器のしくみを知ることができる体験活動があり，音楽の新しい楽しさを子どもたちは学び取ったであろう。子どもにとっての豊かな学習資産形成になった筈である。初めてのミュージカルということもあってのとまどいも見られたが，活動内容にバラエティがあり，試行錯誤の中で子どもたちは成長していくものと思われる。5年間の積み重ねが大きいだろう。

このセミナーに対する保護者の支援も強く感じられた。最後に特筆されることは，子どもたちが礼儀正しいという点である。指導者を信頼しているからこその成果だと思った。

7　西宮子ども音楽セミナー（兵庫県西宮市）　実施責任者:岩崎 久仁子

【事業報告書】

1. 事業の目的	①小学校高学年や中学・高校生が、効果的な音楽学習と交流の事業の企画·実施に参加し、子どもたちを指導する活動を通じて、小学校高学年や中学・高校生のリーダーシップを養うこと。 ②音楽を教える経験と、子どもたちと音楽の感動を共有する経験を通して、小学校高学年や中学・高校生が音楽を学ぶことの大切さと喜びを知り、人を思いやる豊かな心や感受性と、人と共に働く協働性・社会性を育むこと。 ③地域のリーダーとしての経験をきっかけとして、地域の音楽文化の大切さを学ぶこと。		
2. 推進する地方公共団体名（教育委員会担当課等）	西宮市教育委員会　社会教育グループ		
3. 教室名	西宮子ども音楽セミナー		
4. 実施場所	夙川西市民館	5. 実施回数	8回
6. 講師等	講　師　数　　11人	講師謝金　　3,100円	
	参加講師氏名（全員）	岩崎　杉山　澤ノ井　岩本　宮原　久保　平田　井上　今泉　山本　田中 連携講師：常田　金谷　光田　扇田　夙川太鼓社中 てんとうむし音楽隊	
	安全管理数　　1人	安全管理員謝礼　　500円	
7. 参加者（1回あたり）	①子ども（生徒）　　11人　（幼児の参加　無　）		
	②小学校高学年、中学・高校生（リーダー役）　概ね　小　11人、中　7人、高　1人		
8. 参加者の募集の方法	①子ども（生徒）	・西宮市教育委員会より近隣小学校へのチラシ全校配布 ・西宮市市政ニュースに募集掲載	
	②小学校高学年、中学・高校生（リーダー役）	・小学生高学年は、前回のセミナー参加者の継続希望者に参加を募る。 ・中学・高校の音楽関係クラブ・楽器経験者に参加を募る ・西宮市市政ニュースに募集を掲載する。	
9. 全般を通じて育成の対象となったリーダー数	小学生　11人、中学生　7人、高校生　1人		

10. 計画した活動の実施内容

①音楽指導活動の内容

第1回：オープニングだよわいわい！

・リーダーと講座の主旨を理解する。楽曲の企画・曲の決定・パート分担を決める。

第2回：ミュージックリーダーだよ

・わいわい！和太鼓ワークショップ。正調八木節のパート分け。

第3回・サンバのリズムで　わいわい！

・サンバのリズムワークショップ。ジャズとのコラボコンサート。

第4回：ダルシマーだよ　わいわい！

・ハンマーダルシマーワークショップ。サンバ八木節練習

第5回：ブラスとアンサンブルだ　わいわい！

・金管楽器ワークショップ。サンババツカーダ練習。

第6回：リハーサルだよ　わいわい！

・祭りだ！サンバだ！八木節だ！のパート練習

第7回：リハーサルだよ　わいわい！

・祭りだ！サンバだ！八木節だ！舞台位置確認、通し練習。

第8回：ふれあいコンサートだよわいわい！

・夙川公民館ゲネプロ（午前）

・ふれあいコンサート本番。修了式。

②小学校高学年、中学・高校生のリーダーを育成するための具体的活動

第1回～第3回：リーダーとしての役割プログラム

第4回～第5回：リーダーとしてのグループ会議（A・B・C・D4グループ分け）

第6回～第8回：リーダーとしてのグループ会議、パートグ会議、リーダー企画会議

（具体的活動）

・［役割としてのリーダー］：受付、後かたづけ、年少者の世話

・［グループリーダー］：グループ（4つに分ける）ではメンバーの意見を良く聞き、まとめ、意見発表に結びつけた。

・［パートリーダー］：アンサンブルの各パートにリーダーを設け、各パートの演奏力を高める。

・［リーダーとしての自覚］：コンサートに向け、自分がリーダーとして何をすべきか自覚を促した。

11. 目指した成果・目標に対する達成状況

①音楽指導の観点から

（達成できた点、成果が上がった点）

・地域のミュージシャンとの連携により、様々なジャンルの音楽を提供した。
　毎回連携講師によるワークショップを盛り込んだ。
　〔和太鼓・鍵盤ハーモニカ・サンバのリズム・ダルシマー・ブラスアンサンブル・ジャズコンサート〕

・地域の青少年愛護協会との連携により「ふれあいコンサート」で成果を発表した。
　発表という舞台を得ることにより、音楽の完成度を高めた。

（未達成の点、成果が上がらなかった点）

・連携講師によるワークショップは、受講者への音楽的興味付けには非常に役立ち好評だった。
　しかし、時間的制約が30分だったので、もう少し時間的な余裕を持たせたかった。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

（達成できた点、成果が上がった点）

［役割としてのリーダー］

・受付は積極的に小学生のリーダーが役割を担った。

・和太鼓リーダーが初回から片付けを進んで行い、皆が見習った。

［グループリーダー］

・1月のセミナーからは、毎回グループ会議を行った。

・視察調査のリーダー会議では、積極的な意見を聞くことができた。

［パートリーダー］

・各パートは、リーダーを中心に演奏力を高めた。

［リーダーとしての自覚］

・男子中学生は、リーダーの役割は十分果たしたが、リズムができず必死で練習し、当日は笑顔で演奏した。

・鍵盤ハーモニカのリーダーは、吹き口装着のタイミングを自分で決めて全員に指導した。

・舞台での指示は各パートリーダーが、自主的に指示をした。

・ふれあいコンサートでみんなを盛り上げるために、ハンドクラップをするというリーダーが現れた。

以上の観点から、リーダーシップへの芽生えを実感した。

（未達成の点、成果が上がらなかった点）

・講座開始の初回をリーダークラスのみのセミナーとし、リーダー養成の主旨、企画への参画を予定した。
しかし、中高生が期末試験にかかり、小学生高学年のみの参加となり、中高生の企画参画が遅れた。

12. 活動プロセスの中での苦心・工夫した点

①音楽指導の観点から

（苦心した点）

・学年・音楽的能力の異なる受講生が、均一に楽しめ、音楽への興味を深めるために、リズム（和太鼓・サンバ）のアンサンブルを企画編曲し、プログラムを作成した。

・各連携講師のワークショップの内容を、アンサンブル「祭りだ！サンバだ！八木節だ！」の中に盛り込んだ。

・ふれあいコンサートでは、連携講師も参加し、よりよい音楽環境の中で演奏を体感させた。

・アンサンブル編曲は、年齢差を考慮し様々な要素を盛り込み、企画会議、指導体制を強化した。

（工夫した点）

・夙川太鼓の中学生をメンバーに加え、和太鼓指導にあたらせた。

・パートごとにリーダーをつくり、指導にあたらせた。

・各パートの担当楽器は、自分の意思で決めるよう促した。

・ふれあいコンサートでは、こころを一つに、笑顔の演奏が出来るよう、充足感をもたらすように指導した。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

・異年齢のグループを作ることにより、受講生同士の話し合いの場を多く持ち、意見まとめさせること。

・指導員の問いかけに対し、受講生の言葉を待ち意見を導き出すこと。

・ふれあいコンサートでのアンサンブル曲のタイトルを皆で決めたこと。

・コンサートへの往復、食事はグループごとに行い、リーダーに責任感を持たせること。

・参加者同士の挨拶や、会話をできるだけ多くするように促した。

・こころを一つにする楽しさを実感させること。

・アンサンブルによって、共同性、自主性を培うこと。

（工夫した点）

・連携講師にも話し合いに加わってもらった。

・てんとうむし音楽隊は、大学生や社会人初期の人が多く、受講生と指導者の垣根を低くし、受講生ものびのびと発言した。

・アンケート記入後、リーダーだけ残り企画会議を行った。その時の発言は、次回のセミナーに反映させた。

・地域のふれあいコンサートに出場することにより、地域の音楽を育むことの大切さに共感させた。

13. 今後の取り組みに向けての課題

①音楽指導の観点から

・地域の音楽振興にむけて、幼児から高齢者まで楽しめるプログラムの提供。
・ＮＷ兵庫指導員の、主体的な取り組み。ＮＷ兵庫の指導体制の充実。指導員として人材育成能力への自助努力。
・持続的な継続講座の確立。

②小学校高学年、中学・高校生の、リーダー育成の観点から

・現在の教育環境の中では、音楽学習の継続は受験体制に阻まれることを余儀なくしている。しかし修了時に行ったＮＷ兵庫のリーダークラス・アンケートでは、全員が「参加してよかった」と答えている。また次回も参加するか？の問いに対し、時間的余裕がない2名以外は、全員が参加すると答えている。このことからも、十分なプログラムを用意すれば、地域でのリーダー育成は可能と思われる。
・21年度本事業は、西宮子ども音楽セミナーの5年間の事業の継続により、音楽リーダー養成の芽生えを実感した。今後は事業の継続を行うことにより、地域の音楽文化への貢献ができうると考える。
・リーダー育成の課題は、いかに事業を継続するかにかかっている。

指導者へのアンケート

(1) リーダーたちが習得したと、指導者が判断した能力

指導者には、事業を経験することで習得したと思う能力に順位を付してもらった。
（結果）
協調性→積極性→リーダーシップ→コミュニケーション力→遂行力→→計画力

(2) 指導者として努力した点

指導者Ａ：学年、音楽能力の異なる児童が均一に楽しめ、学習への興味を深めるよう、普段にあまり学習しない和太鼓やサンバのリズムをプログラムに盛り込んだこと,地域の和太鼓保存会からセミナー修了生を含め中学生3名参加要請し、和太鼓学習を受講生が身近に感じ練習がスムーズになるよう促したこと,地域の連携講師の参加により、地域ミュージシャンとの音楽環境の中で、よりよい音楽を体感させたこと
指導者Ｂ：年齢層が広いので、どの学年にも課題が持てるように選曲した
指導者Ｃ：記載なし
指導者Ｄ：自分の意志でなく、担当した楽器に対して不満感が感じられた。その子どもに対しての接し方は考えた。大変難しかったが、できる限り子どもの疑問点を応えた
指導者Ｅ：グループでの活動の場ではミュージックリーダーに司会を進行してもらい、私はできるだけ前にでないように心がけた
指導者Ｆ：子どもから「ああしよう、こうしよう」という言動が出るように問いかける、言動が出るまで待つ
指導者Ｇ：企画会議等参加できなかったため、省略させていただきます
指導者Ｈ：初回から参加していたので、まず、とくに初参加の子どもたちが場にすんなり入っていけるように明るく、話しやすい雰囲気作りを心がけようとしました
指導者Ｉ：リーダーたちへの具体的、または自分たちで考えられるような声かけ、手伝いを通じて段取りを考えさせる、自分たちの成果を感じてもらえる場所作り
指導者Ｊ：グループ分けをしてそれぞれリーダーを設けた
指導者Ｋ：コミュニケーションをとること

(3) 指導者として工夫した点

指導者Ａ：曲のパート別にパートリーダーを作ったこと、各パートの年少者に対して関心をもつようになったこと、楽器の構成とは別に縦割りの異年齢別にリーダーを分けたこと、会議を重ねるごとに会話が弾み、上手く纏め上げる作業が循環し、思わぬ意見が飛び出るようになった。そのことにより、次回の指導につなげることができたこと
指導者Ｂ： 色々なパートを含む子どもたちでグループ分けをした
指導者Ｃ： 参加児童をグループ分けし、グループごとに児童のリーダーを決めて、指導員と共に練習にあたったこと
指導者Ｄ：自分のやりたいと思って演奏している楽器がうまくできない子どもに対して、できない原因を見つけて指導した

指導者Ｅ：子どもたちができないことを少しでも減らし、少しでもできるようになって、できるようになったことの喜びを感じてもらえたらと思い、自信をもって練習に（セミナーでの楽曲の練習に）取組んでもらえるような指導を心がけた
指導者Ｆ：子どもの言動がでるまで待つだけでは進行が滞るので、解決のヒントを織り交ぜた問いかけをした
指導者Ｇ：記載なし
指導者Ｈ：個人的には特にありません
指導者Ｉ：他人に対して思っていることを言葉で伝える、表現するという場所つくり
グループミーティングの時間を作り、メンバーの意見や要望を聞き、まとめ、発表する機会が作れた、グループリーダーやパートリーダーという役割を作り、その中で出てきた意見、要望などを次のセミナーで反映させる。そのときには、○○さんからの意見、要望を採用したなどと伝えた、認める、ほめる、ありがとうのことばをかける回数を今まで以上に意識的に増やした、自主的に考え、行動できるような環境作り、雰囲気つくり
指導者Ｊ：初回はリーダーとなる児童だけでセミナーを開催した。そこでリーダーであることをそれぞれのリーダーに意識させる
指導者Ｋ：記載なし

(4) 今回できなかったこと

指導者Ａ：リーダー養成に関しては、最初2回をリーダークラスの講座にしたが、中高生が期末試験と重なり、小学生のリーダークラスのみの参加となった、ＮＷ兵庫はできるだけ指導員全員が参加する指導体制を作ってきた。その上でＮＷ兵庫の指導員の、今一歩主体的な取り組みが必要と感じた。ひいては、ＮＷ兵庫の指導体制の充実、指導員としての人材育成能力の自助努力
指導者Ｂ：記載なし
指導者Ｃ：記載なし
指導者Ｄ：発表の場をもつことで、限られた時間でゆっくりと指導することができなかった。せっかくのワークショップももっと時間をかけたかった
指導者Ｅ：今回グループ分けをして低学年の（様々な学年の）子どもたちと交流する機会を作れたことはとても良いことであったと思う。ただ、時折仲の良い子同士が固まってずっと話を続ける場面が見られ、残念に思った。何度か注意しようと思い、リーダーに任せるべきか、私が言うべきか迷った末、結局私が注意することはないまま終わってしまったことを反省している。もう少しグループで行動する機会を前半から作れていたら、もっとグループ内での新しい仲間との交流もうまれたのかもしれない
指導者Ｆ：ゼロからの企画、選曲
指導者Ｇ：記載なし
指導者Ｈ：年齢層が幅広く、例年に比べて内容もランクアップしていて、全体をつかむまでに時間がかかってしまいました。内容を下げるのではなく、もっと時間をかけて取組むことができれば、リーダー育成も音楽の面でも更に掘り下げていくことができたのではないか
指導者Ｉ：あまりに短期間で内容が濃すぎたので、充分に音楽的にもリーダーについても深く活動できなかった。もう少し丁寧な指導がしたかった
指導者Ｊ：せっかくグループを作ったのだから、そのグループをもっと活用する時間を与えたかった
指導者Ｋ：私自信が全体像をつかめていなかったこと

(5) 今後すべきこととしたいこと

指導者Ａ：事業の継続、新たに地域連携の発掘、地域の音楽文化の復興
指導者Ｂ：このようなセミナーを継続していきたいと思います
指導者Ｃ：この西宮子どもセミナーも、回を重ねるごとに地域との連携も強くなっていき、様々なジャンルの素晴らしい連携講師の方々により、内容も年々楽しく、レベルアップしたものになってきていくように思われます、今回の参加児童の「ミュージックリーダー」が少しずつ育っていくことにより、さらなる新しい展開があるのでは、と期待しています
指導者Ｄ：広く浅くの指導より、一つのことをもっと深く子どもたちと一緒に創り上げる指導をしたい。それには、自分自身もっともっと子どもたちに指導できるように勉強すべきと反省している。今後すべきことは、まず自分の勉強だと思っています
指導者Ｅ：今回、ミュージックリーダーや参加している子どもたちに感想や意見を聞き、セミナー終盤に子どもたちの意見を反映させたセミナーができたことはよかったと思う。受身の状態では意見や感想は言えないと思うし、また、これから子どもたちが成長する上で大切な「自分の考え」を言うことの大切さについて学ぶきっかけになったのではないと思っている。機会があればまたこのようなかたちでセミナーが行えれば、友達や仲間の気遣いなど多くのことを学べ、一人一人が成長する上での良い経験が出来るのではないかと私は考える
指導者Ｆ：ゼロからの企画、選曲
指導者Ｇ：セミナーの回数が少ないと実現はムリなことですが、リーダーの子どもに、実際の練習を進めていく経験もさせることができればいいなと思います。音楽的な指導はほとんどできないので実質は進行役です。このことを経験することで、また違った立場の視点をもつことができ、指導を受けるとき受身ではいけない、ということを学んでもらえるからです

指導者Ｈ：ワークショップには、初体験の楽器や情報に触れて、子どもたちのそれまでに見えなかった一面が現れたり、深く興味を示したり、自分の生活との共通点を発見したりなど、輝く瞬間がえられる時間があると感じました。1つ1つは小さな体験ですが、こうした音楽を通じた自己肯定感の獲得も、長い目で見ればリーダー育成に繋がっていくと思います。1つの大きなプログラムと並行してワークショップを導入した企画を続けていますが、限られた時間の中ではワークショップの時間はどうしての短くなってしまうのが残念です。時間に縛られない、時間をかけた育成を続けていければいいと思います

指導者Ｉ：この企画を継続したい。せっかくの土壌と種まきができたので、もう少し時間をかけてリーダー作りに取り組みたい、企画会議段階からのリーダーたちの参加、プログラム作り、一定の時間をリーダーに委ね、指導者は側面、後方支援ができる体制を作る、音楽を通じて子どもたちが積極的に考え、行動できる、生きる力をはぐくめる場所を提供したい。

今回音楽指導の中に太鼓を取り入れたので、地元の太鼓クラブから2名の中学生が参加してくれた。あちらの指導者の感想で、「太鼓がとてもうまくなった」「セミナーに行かせてよかった」と話された。もちろん太鼓の指導などしていない。そのうちの一人は、自分の成長について「今まで限界まで努力したことがなかったが、今回練習を頑張った」「同じ太鼓のメンバーに教えることができた」と話した。短期間であったが、彼は、自分の立場を自覚し、責任感がでて、自主的に積極的に音楽と取組めたのだと思う。今後は他の音楽集団との交流などもしてみたい

指導者Ｊ：ある1つのテーマを与えて、グループ別の企画を作らせて後に総合的にまとめて実施に移すこと

指導者Ｋ：音楽的に完成度を高くすること（ｆ、ｐ、ダイナミックとかバランスとかに留意して）

リーダーたちへのアンケート

リーダーたちには、事業開始前と終了後に同じ質問項目によるアンケート調査を実施した。1から5までの5件法で回答してもらい、事業前後でそれぞれの9項目の平均値を比較した。

（結果）

<u>自信がついた能力</u>

・みんなの悪いところは注意できる　・人の嫌がることができる　・友達が失敗したら助けてあげられる

・友達の前で自分の意見が言える　・グループをリードできる　・グループで行動できる）

<u>自信をなくした能力</u>

・みんなの意見をまとめることができる　・計画を立てて行動できる

<u>変化しなかった能力</u>

・今何をしたらよいかがわかる

調査報告　調査員:今西幸蔵

（1）事業の目的とする効果・成果について

①子どものリーダーたちに企画力、問題解決力が身についてきた。　→かなり達成された

②子どものリーダーたちの指導力、学習力の向上がみられる。　→ほぼ達成された

③子どものリーダーたちが将来への夢をもち、意欲的に考える事につながっている。　→ほぼ達成された

④異学年や地域の大人たちとの交流を通じて社会性が身についてきた。　→かなり達成された

⑤本物の音楽や楽器の体験を通して音楽の素晴らしさを学ぶことができた。　→かなり達成された

⑥合奏・合唱などの共同作業を通じて協調性や社会性を育むことができた。　→ほぼ達成された

（2）総評

まずは楽しいと思うセミナーであった。小学生及び中学生計26名に加えて，大学OB生5人，プロ演奏者と指導者8人が参加しており，異年齢交流という場づくりはもちろん，相互の理解と助け合いもあって，観察していてほほえましい感じが得られるような練習であった。参加している子どもたちも，これまでも同事業に参加している子どもたちも多く，継続性があって発展的であるという点で評価できる内容だった。

こうした集団活動においてはリーダーの役割が大切となるが，ミュージックリーダーが適切に役割を担っていたように思われる。小さい子どもの意見をまとめたり，年上の人の意見を聞いたり，同年齢でも学校が異なる子どもも大勢いるが，こうした子ども同士が良い関係を持つようにしたりするなど，リーダーの感想からも課題を持ちつつ，それを乗り越えていったことが分かった。観察者（調査委員）の意見として，音楽指導員の指導がうまくいっているケースだと指摘したい。活動内容について，子どもたちは，リズム，かけ声のタイミング，演奏で合わせること，エンディングなどのむつかしさを訴えながらも，「だんだんできることが楽しい」という感想をもらしていた。豊かな人材育成の場になっていることを高く評価したい。

3. 総　評

今回の調査では、指導者とリーダー格の児童・生徒を対象として、アンケート調査を実施した。

指導者に対するアンケート調査では、それぞれの取組において、音楽プログラムと育成プログラムの実施において、「指導者として努力した点」、「指導者として工夫した点」、「今回できなかったこと」、「今後すべきこととしたいこと」について、指導者全員に回答してもらった。回答内容は、各取組の報告の最後に掲載したので、参照してもらいたい。取組内容が異なるので総合的な分析はできないが、短期間での取組であるために、継続を望む声、リーダー格の児童・生徒の多様性に起因する指導の難しさなどを指摘する声が多い。

また指導者たちに、今回の取組でリーダー格の児童・生徒が習得したと判断した能力の順位を回答してもらった。それぞれの取組の指導者全員が回答した順位の平均を、表1に整理した。

表1：リーダーたちが習得したと、指導者が判断した能力

教　室　名	指導者の評価による、リーダーが獲得した能力の順序
宮っ子ステーション	リーダーシップ→コミュニケーション力→積極性→協調性→遂行力→→計画力
箏で和くわくいきいき体験	積極性→コミュニケーション力→協調性→遂行力→リーダーシップ→計画力
市原子ども音楽セミナー	リーダーシップ→コミュニケーション力＝協調性→積極性→遂行力→→計画力
田浦おんがくっ子塾	積極性→リーダーシップ→コミュニケーション力→→協調性→遂行力→→計画力
富士宮子ども音楽セミナー	コミュニケーション力→協調性→リーダーシップ→積極性→遂行力→→計画力
三好子ども音楽セミナー	協調性→積極性→コミュニケーション力→遂行力→リーダーシップ→計画力
西宮子ども音楽セミナー	協調性→積極性→リーダーシップ→コミュニケーション力→遂行力→→計画力

一般的な傾向として指導者たちは、協調性、積極性、リーダーシップが身についたと判断しているが、他方、遂行力、計画力が身についていないと判断した。音楽プログラムの立案・計画そのものが指導者によるものであることから、リーダーが能力を身につける機会がなかったからのように思われる。また取組によって、能力の順位が異なるが、それは取組の内容だけでなく、リーダー格の学年構成によるところが大きいように思われる。「宮っ子ステーション」と「市原子ども音楽セミナー」ではともにリーダーシップを第一位に挙げているが、表2に見るように、前者のリーダーが中学生・高校生で、後者のリーダーが小学生であることから、身についた、と思ったリーダーシップ力の内容も異なることが容易に想像できる。

表2：リーダーの学年構成

教　室　名	全般を通して育成の対象となったリーダーの学校種と人数		
	小学生	中学生	高校生
宮っ子ステーション	0	6	9
箏で和くわくいきいき体験	1	4	1
市原子ども音楽セミナー	6	1	0
田浦おんがくっ子塾	4	0	2
富士宮子ども音楽セミナー	8	0	3
三好子ども音楽セミナー	2	5	3
西宮子ども音楽セミナー	11	7	1

リーダー格の児童・生徒には、参加した事業の各回において振り返りシートを記入してもらい、事業の前後で同一項目によるアンケート調査を実施した。項目は、「みんなの意見をまとめることができる」、「みんなの悪いところは注意できる」、「人の嫌がることができる」、「友達が失敗したら助けてあげられる」、「友達の前で自分の意見が言える」、「グループで行動できる」、「グループをリードできる」、「計画を立てて行動できる」、「今何をしたらよいかがわかる」の9項目で、いずれも自分をリーダーとしてどのように意識しているかを調べるものである。1. 大いにあてはまる、2. あてはまる、3. どちらともいえない、4. あまりはてはまらない、5. まったくあてはまらない、の5件法で回答してもらい、平均値を比較した。表3は、各取組ごとに比較したものである。↑は意識の高まりを、つまり自信がついた項目を示し、他方、↓は意識の低下、つまり自信をなくした項目を指す。—は顕著な変化がなかった項目である。

表3：事業前後でのリーダーの意識の変化

教　室　名	事業の前後でのリーダーの自己意識の変化								
	みんなの意見をまとめることができる	みんなの悪いところは注意できる	人の嫌がることができる	友達が失敗したら助けてあげられる	友達の前で自分の意見が言える	グループで行動できる	グループをリードできる	計画を立てて行動できる	今何をしたらよいかがわかる
宮っ子ステーション	↑	↑	↑	↑	↑	—	↑	↑	↑
箏で和くわくいきいき体験	—	—	—	↓	—	↓	—	↑	↑
市原子ども音楽セミナー	↓	—	↓	—	—	—	↑	—	—
田浦おんがくっ子塾	↑	—	—	↑	—	↓	↑	—	↑
富士宮子ども音楽セミナー	↑	—	—	—	—	↓	↓	—	—
三好子ども音楽セミナー	—	↑	—	—	↓	—	—	—	↓
西宮子ども音楽セミナー	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↓	—

「宮っ子ステーション」と「西宮子ども音楽セミナー」では、意識の向上が顕著に表れている。しかしここでもリーダーの学年構成への注意は必要である。前者は中学生・高校生が多数をしめ、他方後者は小学生が多数を占めている。中学生は中学生なりに、小学生は小学生なりに、自分の成長を意識しているのであって、絶対的な指標ではないということである。

もうひとつ注目してよいのは、「グループで行動できる」の項目をはじめ、6つの取組において、自信をなくした項目があるということである。つまり、こうしたリーダー役を経験することで、経験のない児童・生徒はなんらかの困難を経験し、葛藤を感じているということである。指導者はこのような児童・生徒に対して、十分な配慮をする必要があるように思われる。リーダー育成のプログラムは、児童・生徒の年齢や性格を考慮した立案され、実施にあたっても精神的なケアが必要であることは、忘れてはならないだろう。

平成21年度の放課後活動支援モデル事業では、7つの事業が本財団が主催する生涯学習音楽指導員養成講

座を修了したA級指導員によって実施された。すべての事業において、音楽プログラムによるリーダー育成という事業も目標を達成することができた。

生涯学習音楽指導員の努力もあって、行政とのつながりは太いパイプで結ばれつつあるが、まだまだ指導員の活動を理解し、彼らの能力を施策の実施に活用しようとする意識は乏しいと言わざるをえない。今後、文部科学省等の国の機関が、都道府県や市区町村の担当部署への周知を行うことも急務であるように思われる。

平成21年度 放課後活動支援モデル事業調査委員長
久保田 慶一

平成21年度 放課後活動支援モデル事業
調査委員会（50音順）

今西 幸蔵　（神戸学院大学教授）
久保田 慶一（東京学芸大学教授）＊
澤崎 眞彦　（東京学芸大学教授）
立田 慶裕　（国立教育政策研究所総括研究官）
八木 正一　（埼玉大学教授）

＊　委員長

財団法人 音楽文化創造